



令和8年度 全国学力・学習状況調査

調査結果報告書

岩見沢市教育委員会

（岩見沢市立教育研究所）

R8.10.2

I 調査の概要

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、

- 市内における児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 報告書の内容

文部科学省では調査結果の解釈等に関する留意事項で「本調査の結果については、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部分であること、学校における教育活動の一側面に過ぎないことに留意することが必要である」と述べている。この点を十分に踏まえた上で、本報告書では岩見沢市の調査結果からみた学力の全体的な傾向及び児童生徒質問調査等の特徴的な事項並びに指導改善の取組等について記載している。

3 調査の対象

小学校（含義務教育学校）と中学校（含義務教育学校）の全児童生徒

4 調査の内容

(1) 教科に関する調査〔国語、算数・数学、英語（中学校のみ）〕

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

(2) 質問調査

- ① 児童生徒に対する質問調査（学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査）
- ② 学校に対する質問調査（指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査）

- ・教科に関する調査の実施：令和8年4月23日（木） 中学校英語は4月20日（月）～23日（木）のいずれかで実施
- ・質問調査：令和8年4月の一定期間内にオンライン方式により実施
- ・調査結果の分析：令和8年7月29日（水）～9月29日（火）
- ・報告書の完成：令和8年9月30日（水）

校種	学校総数（校）			参加学校数（校）			児童生徒数（人）		
	岩見沢(公立)	北海道(公立)	全国(公立)	岩見沢(公立)	北海道(公立)	全国(公立)	岩見沢(公立)	北海道(公立)	全国(公立)
小学校 (含義務教育学校)	14	903	18,126	14	901	18,077	480	33,171	922,778
中学校 (含義務教育学校)	9	558	9,249	9	555	9,146	524	32,620	842,491
合 計	23	1,461	27,375	23	1,456	27,223	1,004	65,791	1,765,269

Ⅱ 教科に関する調査結果の概要

1 岩見沢市の児童生徒の学力の状況

○【全国を100とした場合の平均正答率との比較】

- ・小学校は、国語・算数とも全国平均からみてやや低い。
- ・中学校は、国語・英語は全国平均からみてやや低く、数学は全国平均より低い。

2 岩見沢市・北海道・全国の平均正答率（中学校英語 R8は平均 I R T スコア：基準は500）

(%)

児童生徒	項 目	国 語		算 数・数 学		英 語	
		R 8	R 7	R 8	R 7	R 8	R 5
小学校 6年生	岩 見 沢 市	59	63	54	55		
	北海道(公立)	60	65	54	55		
	全 国(公立)	60.9	66.8	56.4	58		
中学校 3年生	岩 見 沢 市	62	55	54	48	476	45
	北海道(公立)	63	54	55	47	489	44
	全 国(公立)	63.9	54.3	57.0	48.3	499.0	45.6

※岩見沢市と北海道の各教科平均正答率については、国から提供された整数値で示している。

3 全国平均正答率と平均 I R T スコアを100とした場合の岩見沢市・北海道の数値

(%)

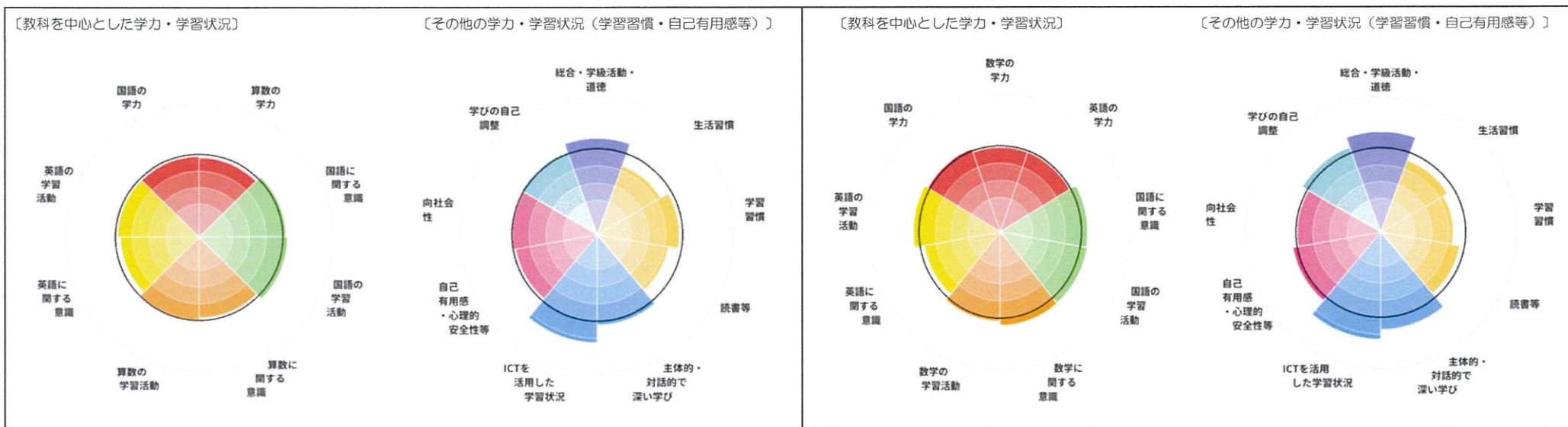
児童生徒	項 目	国 語		算 数・数 学		英 語	
		R 8	R 7	R 8	R 7	R 8	R 5
小学校 6年生	岩 見 沢 市	96.9	94.3	95.7	94.8		
	北海道(公立)	98.5	97.3	95.7	94.8		
	全 国(公立)	100	100	100	100		
中学校 3年生	岩 見 沢 市	97.0	101.3	94.7	99.4	95.4	98.7
	北海道(公立)	98.6	99.4	96.5	97.3	98	96.5
	全 国(公立)	100	100	100	100	100	100

結果チャート

小学校

※黒線は、全国平均を表しています。

中学校



全国と比較して、「国語の学習活動」の領域のスコアは高いが、「算数の学力」や「算数に関する意識」、「英語に関する意識」の領域のスコアは低い。
「ICTを活用した学習状況」や「総合・学級活動・道徳」は全国と比較しても高いが、「生活習慣」「読書等」の領域のスコアは低い。

全国と比較して、「国語・英語学習活動」や「国語・数学に関する意識」の領域のスコアは高いが、「英語に関する意識」の領域のスコアは低い。
「ICTを活用した学習状況」や「総合・学級活動・道徳」は全国と比較しても高いが、「生活習慣」や「学習習慣」、「読書等」の領域のスコアは低い。

＜令和8年度教科を中心とした学力・学習状況の領域名と児童質問番号の対応一覧表＞

領域番号	領域名	児童質問 対応領域・質問番号	スコア	
			全国基準	北海道基準
1	国語の学力		4.9	5.0
2	算数の学力		4.8	5.0
3	国語に関する意識	(52)(53)(55)	5.2	5.1
4	算数の学習活動	(54)(58)～(59)	5.3	5.0
5	算数に関する意識	(60)(61)(63)(64)	4.8	5.0
6	算数の学習活動	(62)(65)～(67)	5.0	5.0
7	英語に関する意識	(69)～(71)	4.7	4.7
8	英語の学習活動	(72)(73)	4.9	5.0

＜令和8年度その他の学力・学習状況（学習習慣・自己有用感等）の領域名と児童質問番号の対応一覧表＞

領域番号	領域名	児童質問 対応領域・質問番号	スコア	
			全国基準	北海道基準
9	総合・学級活動・道徳	(47)～(51)	5.6	5.3
10	生活習慣	(1)～(4)	4.3	4.6
11	学習習慣	(23)(25)	4.8	5.0
12	読書等	(26)～(30)	4.2	4.6
13	主体的・対話的で深い学び	(38)～(42)(44)(46)	5.2	5.0
14	ICTを活用した学習状況	(35)(36-1)～(36-4)	6.2	5.6
15	自己有用感・心理的安全性等	(6)～(9)(13)(15)(17)(20)(21)	4.8	4.9
16	向社会的性	(11)(12)(14)(33)	5.0	4.9
17	学びの自己調整	(22)(43)	5.1	5.1

＜令和8年度教科を中心とした学力・学習状況の領域名と生徒質問番号の対応一覧表＞

領域番号	領域名	生徒質問 対応領域・質問番号	スコア	
			全国基準	北海道基準
1	国語の学力		5.1	5.2
2	数学の学力		4.9	5.1
3	英語の学力		4.9	5.1
4	国語に関する意識	(52)(53)(55)	5.4	5.2
5	国語の学習活動	(54)(58)～(59)	5.4	5.2
6	数学に関する意識	(60)(61)(63)(64)	5.4	5.6
7	数学の学習活動	(62)(65)～(67)	5.2	5.3
8	英語に関する意識	(69)(70)(72)(73)	4.7	4.9
9	英語の学習活動	(71)(74)～(76)(78)～(80)	5.4	5.4

＜令和8年度その他の学力・学習状況（学習習慣・自己有用感等）の領域名と生徒質問番号の対応一覧表＞

領域番号	領域名	生徒質問 対応領域・質問番号	スコア	
			全国基準	北海道基準
10	総合・学級活動・道徳	(47)～(51)	5.9	5.6
11	生活習慣	(1)～(4)	4.5	4.8
12	学習習慣	(23)(25)	4.3	4.9
13	読書等	(26)～(30)	4.7	4.8
14	主体的・対話的で深い学び	(38)～(42)(44)(46)	5.7	5.5
15	ICTを活用した学習状況	(35)(36-1)～(36-4)	6.3	5.8
16	自己有用感・心理的安全性等	(6)～(9)(13)(15)(17)(20)(21)	5.2	5.4
17	向社会的性	(11)(12)(14)(33)	4.9	5.0
18	学びの自己調整	(22)(43)	5.3	5.4

※領域番号1～2については、各教科の全国平均正答率を基準として比較したものである。
※領域番号3～8については、「小学校児童質問対応領域・質問番号」に準拠した質問における「選択別回答の得点集計」の全国平均値を基準として比較したものである。

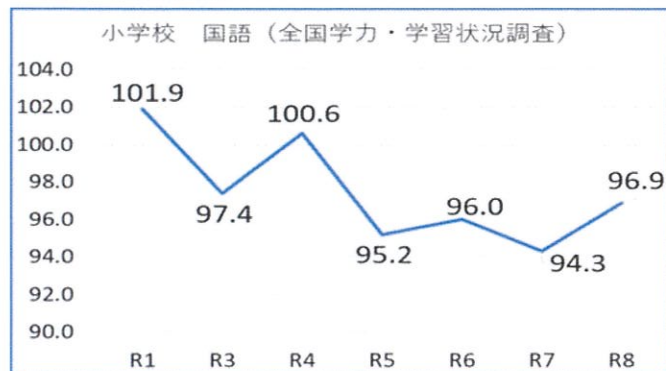
※領域番号9～17については、「中学校児童質問対応領域・質問番号」に準拠した質問における「選択別回答の得点集計」の全国平均値を基準として比較したものである。

※領域番号1～9については、各教科の全国平均正答率を、領域番号10については全国平均正答率を基準として比較したものである。
※領域番号10～18については、「中学校生徒質問対応領域・質問番号」に準拠した質問における「選択別回答の得点集計」の全国平均値を基準として比較したものである。

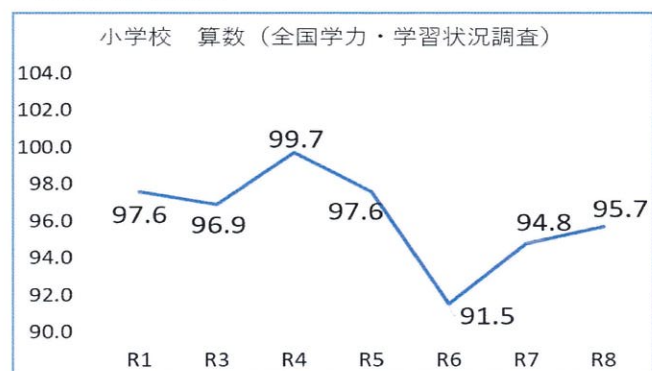
※領域番号10～18については、「中学校生徒質問対応領域・質問番号」に準拠した質問における「選択別回答の得点集計」の全国平均値を基準として比較したものである。

教科別経年変化 (全国平均を100とした場合)

《小学校 国語》



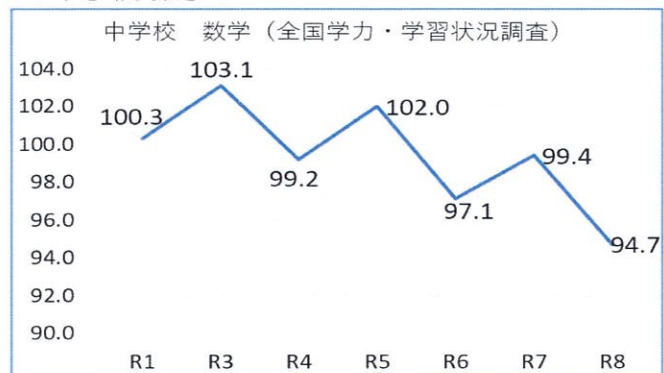
《小学校 算数》



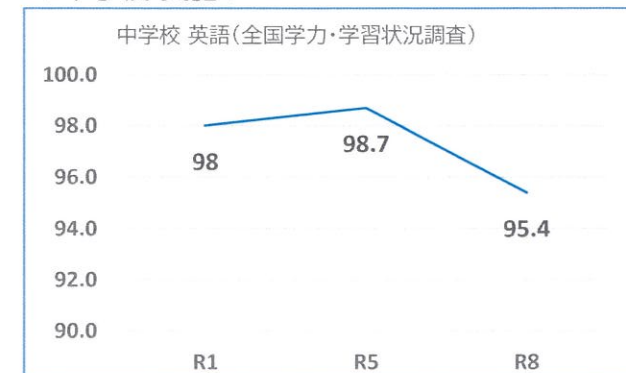
《中学校 国語》



《中学校 数学》



《中学校 英語》



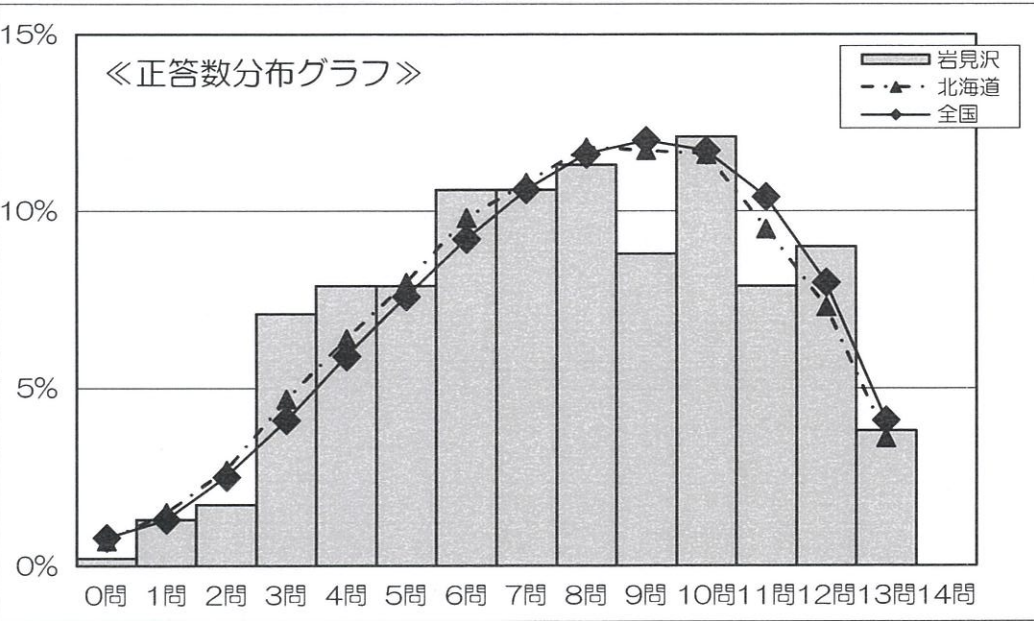
Ⅲ 教科に関する調査結果

1 小学校 国語

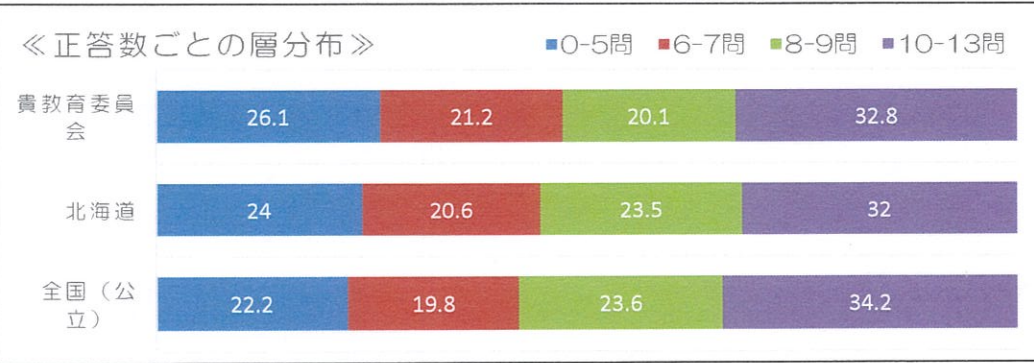
(1) 概要

- 平均正答率は59【59.1】%
- 平均正答率の小数值での比較では、全国との差は、-1.8ポイント

	児童数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
岩見沢	480	7.7 / 13	59	8.0	3.0
北海道（公立）	33,169	7.8 / 13	60	8.0	3.0
全国（公立）	922,411	7.9 / 13	60.9	8.0	3.0

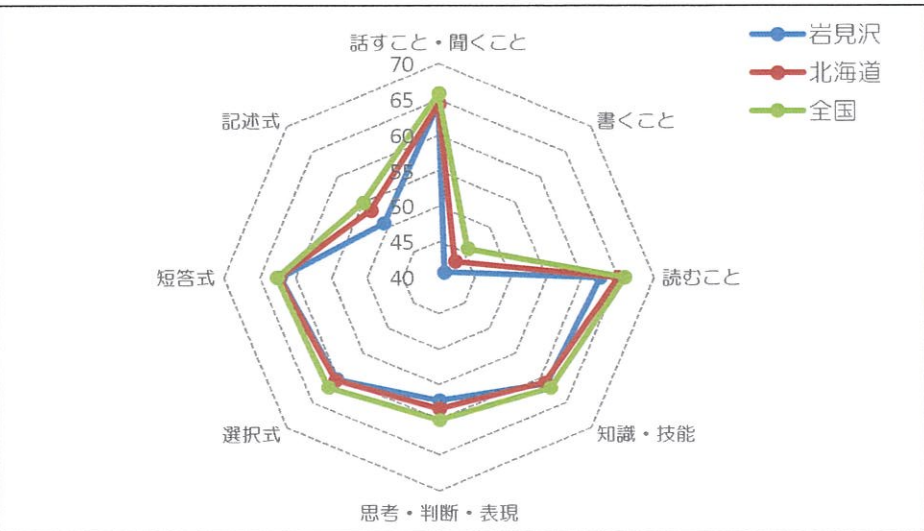


※横軸：正答数 縦軸：割合



《学習指導要領の内容の平均正答率の状況》

分類		区分	対象 問題数 (問)	平均正答率（％）		
				岩見沢	北海道 (公立)	全国 (公立)
全 体			13	59	60	60.9
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	4	66.3	65.9	66.8
		(2) 情報の扱い方に関する事項	2	51	51	52.3
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	0			
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	64.5	64.4	65.8
		B 書くこと	2	41.1	43.2	45.7
		C 読むこと	2	62.5	65	65.9
	評価の観点	知識・技能	6	61.2	60.9	62
思考・判断・表現		7	57.3	58.5	60.1	
主体的に学習に取り組む態度		0				
問題形式	選択式	9	60.2	60.4	61.9	
	短答式	2	62.2	62.3	62.6	
	記述式	2	51	53.4	54.9	



(2) 小学校国語 問題別集計結果

問題番号	問題の概要	学習指導要領の内容						評価の観点			問題形式			正答率(%)			無解答率(%)		
		知識及び技能			思考力、判断力、表現力等									岩見沢市	北海道（公立）	全国（公立）	岩見沢市	北海道（公立）	全国（公立）
		(1) 言葉の特徴や使い方に 関する事項	(2) 情報の扱い方に 関する事項	(3) 我が国の言語文化に 関する事項	A 話すこと・聞くこと	B 書くこと	C 読むこと	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度	選択式	短答式	記述式						
1ー	【構成メモ】の工夫として適切なものを選択する				3・4 イ				○		○			70.2	71.9	73.9	0.0	0.5	0.8
1二 (1)	【動画の一部】の工夫として適切なものを選択する				5・6 ウ				○		○			62.3	59.8	60.2	0.0	0.4	0.6
1二 (2)	【動画の一部】の太線囲みの部分の工夫として適切なものを選択する				5・6 ウ				○		○			61.0	61.6	63.2	0.0	0.5	0.7
1二 (3)	〈音声〉の下線部の工夫の効果として適切なものを選択する	5・6 ク						○			○			65.0	63.8	65.2	0.2	0.5	0.8
2ー	花山さんの文章の工夫を説明したものとして適切なものを選択する					5・6 イ			○		○			54.8	55.9	57.9	0.4	0.6	0.8
2二	【花山さんの文章の一部】の下線部①に続く文として適切なものを選択する		3・4 ア					○			○			49.4	48.7	48.9	0.2	0.8	1.1
2三ア	【花山さんの文章の一部】の下線部アを、漢字を使って書き直す（みじか・い）	5・6 エ						○				○		81.7	77.9	80.0	3.8	4.2	4.1
2三イ	【花山さんの文章の一部】の下線部イを、漢字を使って書き直す（ふしぎ）	5・6 エ						○				○		42.7	46.7	45.2	7.3	6.2	6.6
2四	【花山さんの文章の続き】の空欄に入る内容を、【集めた情報】から抜き出して考えが伝わるように書く					5・6 エ			○				○	27.5	30.6	33.5	6.7	5.3	5.2
3ー	【文章】の特徴として適切なものを選択する	5・6 カ						○			○			75.8	75.1	76.7	1.0	1.6	2.2
3二	傍線部①、②、③について【林さんのメモ】にどのように整理したのかを説明したものとして適切なものを選択する		5・6 イ					○			○			52.7	53.4	55.6	1.0	1.9	2.5
3三 (1)	【話し合いの様子の一部】の空欄に入る内容として適切なものを選択する						5・6 ウ		○		○			50.8	53.8	55.5	1.9	2.5	3.3
3三 (2)	【文章】を読んで考えたことを、自分の経験と結び付けてまとめて書く						5・6 オ		○				○	74.2	76.3	76.4	18.3	15.4	15.6

※岩見沢市の平均正答率が全国より「上回る」、無解答率が「下回る」場合
 ※岩見沢市の平均正答率が全国より「下回る」、無解答率が「上回る」場合

(3) 小学校国語 調査結果から見た課題等と指導改善のポイント

① 正答率の状況

国語科全体の平均正答率は59.1%で、全国水準に近い状況にある。

観点別にみると「知識・技能」は比較的安定している。

「話すこと・聞くこと」は、目的や相手を意識して話したり、話し合いの内容を捉えたりする力は、一定程度身に付いている。

問題別にみると、「漢字を使って書き直す」問題の正答率は、高く、「文章の特徴を捉える」問題も全国よりは低いものの、既習事項を活用し、問われている内容を捉え、適切に答えることには一定の対応力があるといえる。

「自分の経験と結び付けてまとめて書く」問題も正答率が比較的高く、自分の経験等、具体的な手掛かりが明確な場合には、自分の考えを文章にまとめる力を発揮しているといえる。

これらのことから、本市児童は、学習内容や書く内容が比較的明確に示されている場合には、既習事項を活用し、問われていることを捉えて適切に表現する力を発揮できていると考えられる。

② 課題等

「書くこと」の平均正答率は41.1%で、全国平均を下回っている。また、「思考力・判断力・表現力等」も57.3%で、全国平均を下回っている。

問題別にみると、「集めた情報から必要な内容を取り出し、考えが伝わるように書く」問題の正答率は、全国平均を下回っている。この結果から、課題は単に「文章を書く力」の不足というより、複数の情報の中から必要な情報を選択・整理し、それを自分の考えと結び付け、目的や相手に伝わるように表現することにあると考えられる。

また、「『ふしぎ』を漢字で書く」問題の正答率は低く、語彙や漢字等の基礎的・基本的な事項にも継続的な指導が必要である。

さらに、正答率だけでは捉えにくい課題として、無解答率にも着目する必要がある。

「自分の経験と結び付けてまとめて書く」問題は、正答率が74.2%である一方、無解答率は18.3%であった。このことから、一定数の児童が「何を書けばよいかを整理する」「自分の考えを整理して書き始める」「考えを文章として表現する」といった過程に難しさを感じていることがうかがえる。

したがって、正答率の低い問題への対応に加え、「書きたいことはあっても、何をどのように書けばよいかかわからず、書き始めることが難しい児童」への支援という視点も重要である。

③ 課題から考えられる指導改善のポイント

今回の結果を単に「書く力が弱い」と捉え、文章を書く練習量を増やすだけでは十分な改善につながらない考える。「何を書けばよいか」が明確な課題には取り組める一方、自分で情報を選び、考えを整理し、相手に伝わるように表現する課題では、力を十分に発揮できない」という児童の姿に着目することが重要である。

そこで今後は、単に「文章を書く」機会（練習）を増やすのではなく、次のような「思考してから書く」学習過程を授業の中に意図的に位置づける必要がある。①「何のために書くのか」を明確にする ②必要な情報を自分で選択する ③選んだ情報を基に、自分の考えを整理する ④相手や目的に応じて表現する ⑤文章を読み返し、より伝わる表現へと修正する

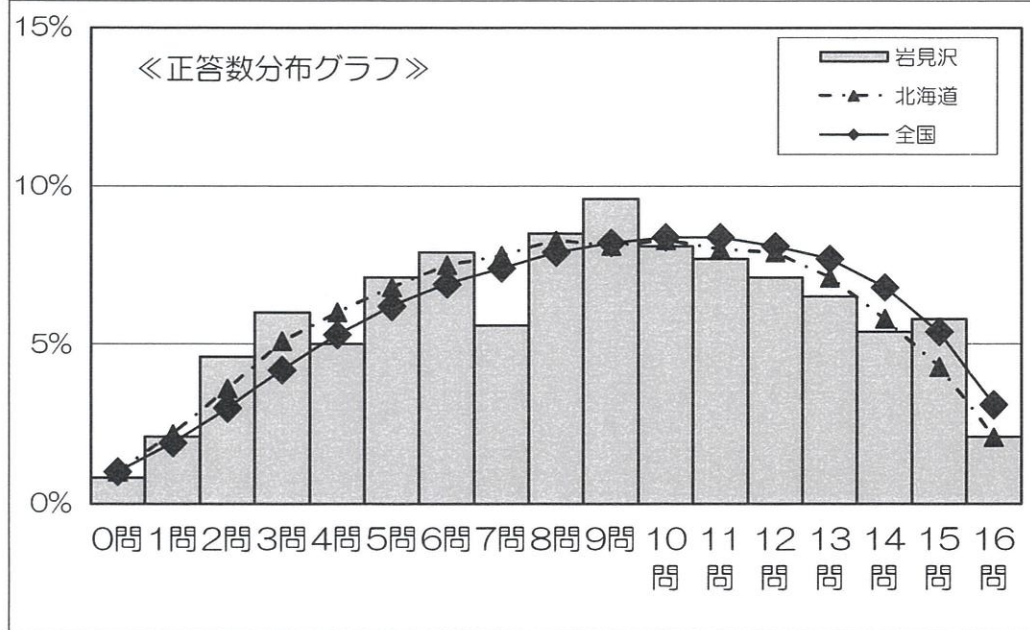
その際、教師が文章の型を一方向的に与えるのではなく、「どの情報を使うか」「なぜその情報を選んだのか」「どのように考えをまとめるか」「どの表現なら相手に伝わるか」といったことを児童自身が判断する場面を増やしていくことが大切である。「教師に言われたから書く」のではなく「自分の考えを伝えるために書く」という書くことの目的や必然性を児童が実感できる授業へ転換していくことが求められる。こうした授業改善は、「書く力」という国語科の資質・能力を育成するだけでなく、児童が自ら考え、選択し、表現し、学びを振り返るという学習の充実にもつながり、「学びを自分事にする」ための授業の質的転換という本市の授業改善の方向にもつながるものである。

2 小学校 算数

(1) 概要

- 平均正答率は54【53.6】%
- 平均正答率の小数值での比較では、全国との差は、-2.8ポイント

	児童数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
岩見沢	480	8.6 / 16	54	9.0	4.0
北海道（公立）	33,171	8.6 / 16	54	9.0	4.0
全国（公立）	922,778	9.0 / 16	56.4	9.0	4.0



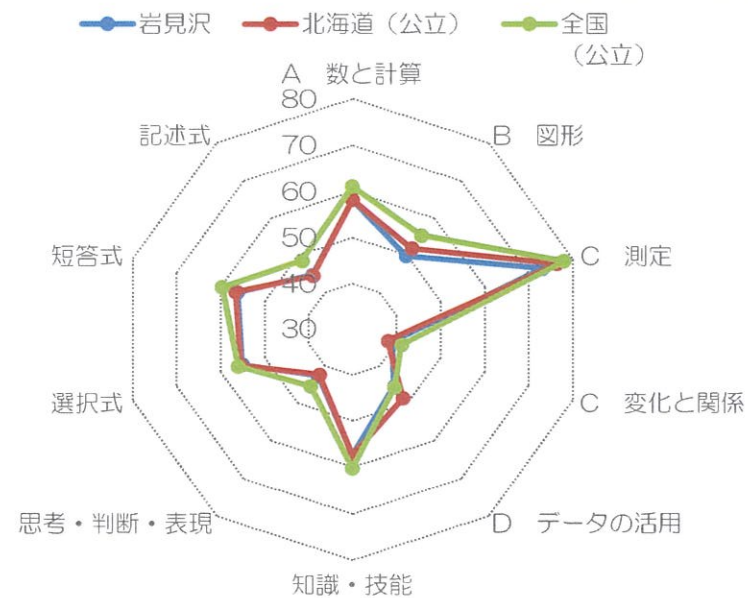
《正答数ごとの層分布》

■0-5問 ■6-8問 ■9-11問 ■12-16問

岩見沢	25.6	22	25.4	26.9
北海道	24.7	23.6	24.4	27.2
全国	21.6	22.2	25	31.1

《学習指導要領の内容の平均正答率の状況》

分類	区分	対象 問題数 (問)	平均正答率(%)		
			岩見沢	北海道 (公立)	全国 (公立)
全 体		16	54	54	56.4
学習指導要領 の領域	A 数と計算	8	58.2	58.2	61.1
	B 図形	4	49.8	51.8	55.3
	C 測定	1	73.1	76.4	78.1
	C 変化と関係	3	39	38.1	41.1
	D データの活用	4	45.4	48.6	45.6
評価の観点	知識・技能	12	57.4	57.4	60.1
	思考・判断・表現	4	42.5	42.2	45.4
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	5	55	55.4	56
	短答式	8	56.1	56.6	59.7
	記述式	3	44.7	44.5	48.5



(2) 小学校算数 問題別集計結果

問題番号	問題の概要	学習指導要領の領域					評価の観点			問題形式			正答率(%)			無解答率(%)		
		A 数と計算	B 図形	C 測定	C 変化と関係	D データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習する態度	選択式	短答式	記述式	岩見沢市	北海道(公立)	全国(公立)	岩見沢市	北海道(公立)	全国(公立)
1 (1)	一辺が8cmの立方体の体積を求める式を書く		5(4) ア(イ)				○				○		65.2	66.3	72.7	1.0	1.6	1.3
1 (2)	直方体の箱の形の六つの面のうち、四つの面が示されたとき、残りの二つの面の縦と横の長さを書く		2(1) ア(ウ) 4(2) ア(ア)				○				○		60.8	62.3	63.0	2.7	1.8	1.7
1 (3)	1立方センチメートルの立方体を36個使ってできた直方体の体積を書く		5(4) ア(ア)				○				○		37.7	38.3	40.1	4.2	4.7	4.2
1 (4)	四つの箱のまとめ方によって宅配便の送料に違いがあるかを調べるために、直方体イの送料の求め方とその答えを書く	2(2) ア(ア)	4(2) ア(ア) ※			3(1) ア(ア)		○				○	35.6	40.2	45.2	5.6	6.6	5.8
2 (1)	74291の百の位の数に四捨五入して、千の位までの概数で表したものを選ぶ	4(2) ア(イ)					○			○			62.5	63.1	66.5	0.0	1.0	1.0
2 (2)	イシガメ14匹が動物園全体のカメの数の20%に当たるときの、動物園全体のカメの数を求める式と答えを書く				5(3) ア(イ)		○				○		48.1	47.5	53.1	7.7	8.7	7.2
2 (3)	ペンギンがいる二つの広場の混み具合を求める式の意味について、正しいものを選ぶ				5(2) イ(ア)			○		○			34.8	36.4	36.1	0.6	1.6	1.6
2 (4)	赤いテープの長さが、白いテープの長さの1.5倍になっている図を二つ選ぶ	4(4) ア(ア)			5(3) ア(ア)		○			○			34.0	30.4	34.2	0.2	1.4	1.5
3 (1)	1、5、9の3枚のカードを当てはめてつくることのできる最も大きい数を書く	4(4) ア(イ)					○				○		94.4	94.4	94.5	0.6	1.0	1.0
3 (2)	二つの小数のどちらが5に近いかを判断するために、6.37-5と5-3.76を計算する	4(4) ア(ウ)					○				○		52.7	52.5	58.1	3.3	2.6	2.2
3 (3)	7/3と7/4のどちらの方が大きいかを判断し、そのわけを書く	4(5) ア(ア) イ(ア) 5(4) ア(ア) ア(エ) イ(ア)						○				○	42.5	40.0	44.0	2.7	3.4	3.2
3 (4)	5/3を表す目盛りが示された数直線上で、1を表す目盛りを選ぶ	3(6) ア(ア) ア(イ)					○			○			70.6	68.4	68.1	1.7	2.7	2.7
4 (1)	全員分のアンケートが整理されていない学級を見付け、その根拠となる人数を表1と表2の中から書く					3(1) ア(ア) ※		○				○	56.0	53.3	56.2	4.0	3.7	3.7
4 (2)	昔遊びの計画を見て、全体で使える時間の中で、「前半」に使える時間は何分間かを書く	2(2) ア(ア) 3(4) ア(ア)		3(2) ア(イ)			○				○		73.1	76.4	78.1	4.0	3.8	3.4
4 (3)	二次元の表から、前半にあやとりに参加する人数と、前半はかるたに参加し、後半はあやとりに参加する人数を書く					4(1) ア(ア)	○				○		16.7	15.0	17.9	4.8	4.1	3.9
4 (4)	帯グラフから、「いっしょに話ができたこと」の割合が約何%かを選ぶ					5(1) ア(ア)	○			○			73.1	73.8	74.9	8.3	6.8	6.9

※岩見沢市の平均正答率が全国より「上回る」、無解答率が「下回る」場合

※岩見沢市の平均正答率が全国より「下回る」、無解答率が「上回る」場合

(3) 小学校算数 調査結果から見た課題等と指導改善のポイント

① 正答率の状況

算数科全体の平均正答率は53.6%で、全国平均との差は-2.8ポイントである。

領域別にみると「測定」は全国平均との差はあるが、他の領域と比較して高い正答率を示している。また、「数と計算」は58.2%、「図形」は49.8%、「データの活用」は45.4%となっている。

問題別にみると、「1、5、9の3枚のカードでつくることのできる最も大きい数を書く」問題の正答率は非常に高く、基本的な数量の処理については、確実な定着がみられる。また、「 $5 \div 3$ を表す数直線から1を表す目盛りを選ぶ」問題、「昔遊びの計画を見て、全体で使える時間の中で、『前半』に使える時間は何分か求める」問題、「帯グラフから、『いっしょに話ができたこと』の割合が約何%かを選ぶ」問題は、既習事項を活用して数量を求めたり、資料から必要な情報を読み取ったりする力には一定の成果がみられる。

一方、「変化と関係」は39.0%であり、それに関する問題(2(3)(4))の正答率もやや低くなっている。

② 課題等

「思考・判断・表現」の平均正答率は42.5%で、全国平均を下回っている。「知識・技能」の57.4%に比べ、身に付けた知識や技能を活用して考え、判断し、説明することに課題がみられる。特に、問題形式別では「記述式」が44.7%で、全国平均を下回っており、自分の考えやその根拠を明確にし、式や言葉を用いて説明することに課題があると考えられる。

問題別にみると、「5に近い少数を判断するために $6.37 - 5$ と $5 - 3.76$ を計算する」問題、「 $7 \div 3$ と $7 \div 4$ の大小を判断し、そのわけを書く」問題から、数量の関係を捉え、その根拠を説明することに課題がみられる。特に、「20%に当たる数量から全体量を求める式と答えを書く」問題、「混み具合を求める式の意味について、正しいものを選ぶ」問題、「赤テープの長さが、白テープの長さの1.5倍になっている図を二つ選ぶ」問題は正答率が低く、数量の関係を式や図と結び付けて捉えることにも課題がみられる。

さらに、「二次元の表から複数の条件に合う人数を読み取る」問題の正答率は16.7%と特に低く、複数の情報を関連付け、条件に応じて必要な情報を選択することに課題がみられる。また、「全員分のアンケートが整理されていない学級を見付け、その根拠となる人数を表1と表2の中から書く」問題から、単一または比較的限定された情報を読み取ることはできるものの、複数の条件を組み合わせで判断する場面では難しさが生じていると考えられる。

これらのことから、今回の結果は、単純に「算数の知識・技能が不足している」と捉えるのではなく、身に付けた知識・技能を活用して数量や図形の関係を捉え、複数の情報を関連付け、根拠を明確にして説明することに課題があると捉えることが重要である。

③ 課題から考えられる指導改善のポイント

今回の結果は、「算数の基礎・基本が身に付いていない」と見るより、「基本的な数量の処理や情報の読み取りには対応できる一方、複数の情報や数量の関係を捉え、それを根拠として説明する場面で力を十分に発揮できない」と捉え、指導の改善を図ることが求められる。

今後は、単に計算練習や問題演習を増やすだけでなく、①「何を求めるのか」を明確にする ②必要な情報を選択・整理する ③数量や図形の関係を捉える ④式・図・言葉を関連付けて説明する ⑤友達の考えと比較し、自分の考えを振り返り、よりよい考え方を見いだす、という学習過程を充実させたい。

特に、2(2)、2(3)、2(4)のような数量関係を扱う学習では、「答えを求める」だけで終わらず、「なぜその式になるのか」「この式は何を表すのか」「どの情報を根拠に判断したのか」を説明する場面を学習のゴールとして明確に、日常の授業の中に意図的に位置付けることが重要である。

また、4(3)のような複数の情報を扱う学習では、「どの情報を使うか」「どの方法で考えるか」「どう説明するか」を児童が選択・判断する場面を増やすことで、自己決定を伴う学びにつながる。教師が解き方を示し、それを児童が再現する「Let's型」の学習から、「数量の関係を捉え、根拠を明確にして説明することができる」という「Can型」の学習へと転換していくことができる。

学習の終末には、「どのように考えたか」「友達のどの考え方が分かりやすかったか」「次に生かせることは何か」等を振り返らせ、児童が自分の学び方をメタ認知できるようにすることも重要である。

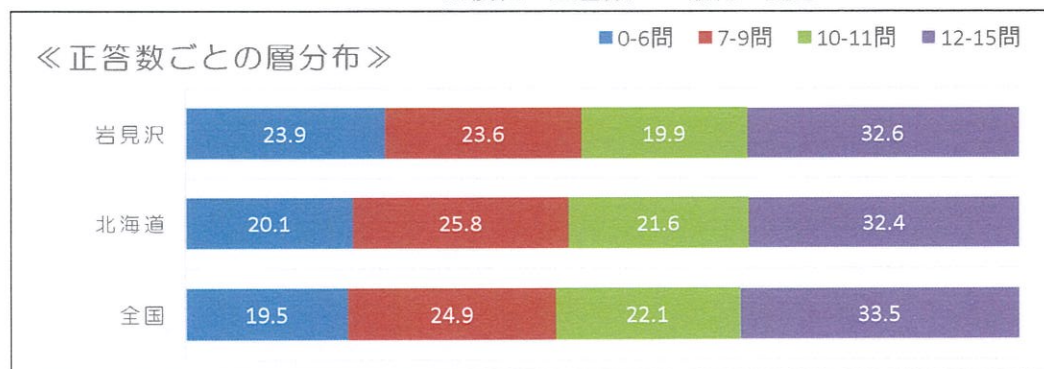
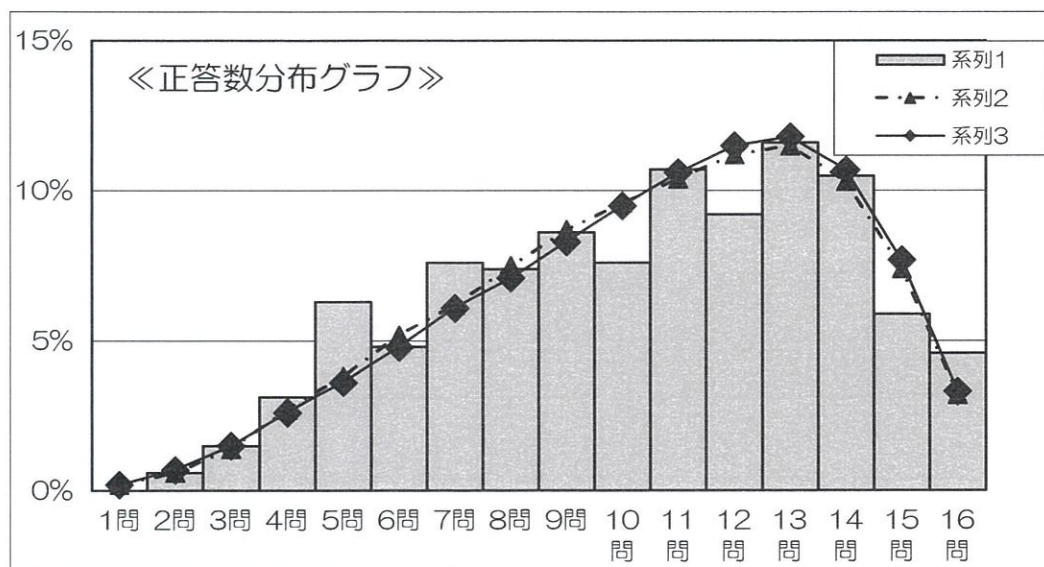
今後の算数科の授業では、「できる」→「なぜできるのか考える」→「根拠をもって説明する」→「考えを比較する」→「自分の学びを振り返る」という学習過程を大切に、「学びを自分事にする」授業への質的転換を図っていくことが求められる。

3 中学校 国語

(1) 概要

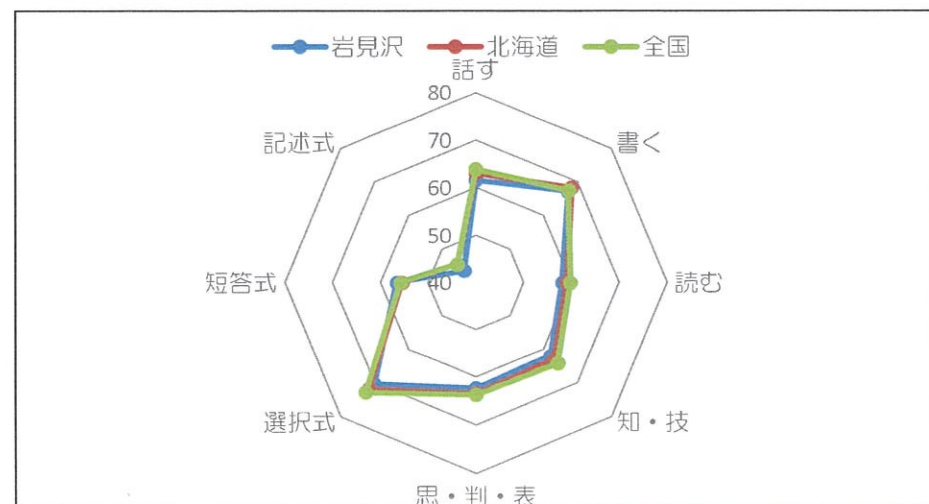
- 平均正答率は62【62.1】%
- 平均正答率の小数值での比較では、全国との差は、-1.8ポイント

	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
岩見沢	524	9.3 / 15	62	10.0	3.4
北海道（公立）	32,596	9.5 / 15	63	10.0	3.3
全国（公立）	841,873	9.6 / 15	63.9	10.0	3.3



《学習指導要領の内容の平均正答率の状況》

分類		区分	対象 問題数 (問)	平均正答率（％）		
				岩見沢	北海道 (公立)	全国 (公立)
全 体			15	62	63	63.9
学 習 指 導 要 領 の 内 容	知識及び 技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	5	60.6	61.9	63
		(2) 情報の扱い方に関する事項	1	69.1	69	70.4
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	0			
	思考力、 判断力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	61.6	63.1	63.9
		B 書くこと	3	67.2	68.2	67.4
		C 読むこと	3	58	59	59.7
評価の観点		知識・技能	6	62	63.1	64.2
		思考・判断・表現	9	62.3	63.4	63.7
		主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式		選択式	9	70.3	71.8	72.7
		短答式	3	56.6	55.5	55.8
		記述式	3	43.5	45.5	45.5



(2) 中学校国語 問題別集計結果

問題番号	問題の概要	学習指導要領の内容						評価の観点			問題形式			正答率(%)			無解答率(%)		
		知識及び技能			思考力、判断力、表現力等									岩見沢市	北海道（公立）	全国（公立）	岩見沢市	北海道（公立）	全国（公立）
		(1) 言葉の特徴や使い方に 関する事項	(2) 情報の扱い方に 関する事項	(3) 我が国の言語文化に 関する事項	A 話すこと・聞くこと	B 書くこと	C 読むこと	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	岩見沢市	北海道（公立）	全国（公立）	岩見沢市	北海道（公立）	全国（公立）
1一	「可能な意味」を含んでいるものとして適切なものを選択する	2オ						○			○			79.4	83.4	84.3	0.0	0.1	0.2
1二	「投げられる」を説明したものとして適切なものを選択する	1エ						○			○			63.4	67.3	70.2	0.0	0.2	0.3
1三	「ら抜き言葉」であるものを選択する	2オ						○			○			83.8	84.7	85.4	0.0	0.1	0.2
2一	発言について説明したものとして適切なものを選択する				1ア				○		○			66.8	69.3	68.5	0.0	0.2	0.3
2二	話し合いの中の発言について説明したものとして適切なものを選択する				1エ				○		○			69.8	69.5	70.4	0.2	0.2	0.3
2三	話し合いを受けて整理したタブレット端末の画面を説明したものとして適切なものを選択する		2イ					○			○			69.1	69.0	70.4	0.2	0.3	0.4
2四	話し合いを受けてどのような意見を述べるか、自分の考えを書く				2オ				○				○	48.1	50.5	52.7	15.8	16.0	14.7
3一	文書作成ソフトに表示された意味と用例を参考にして、漢字を書き、漢字の組合せとして適切なものを選択する（とる）	2ウエ						○				○		37.6	37.5	39.8	0.0	0.2	0.3
3二	気持ちがより伝わるように、表現を工夫して書く					2ウ			○			○		93.1	92.4	92.3	3.6	4.8	4.8
3三	文章の展開の意図を説明したものとして適切なものを選択する					2イ			○		○			63.4	64.9	65.0	0.0	0.4	0.5
3四	書いた文章について、交流を基にして、「この文章のよい点や改善点」と「今後随筆を書くときに生かしたいこと」を書く					2オ			○				○	45.0	47.3	45.0	10.3	11.7	10.7
4一	文章全体を三つに分けて整理したものとして適切なものを選択する						1ア		○		○			70.4	71.0	71.6	0.0	0.6	0.7
4二	国語辞典を参考にして、「ほうふつとさせる」と同じような内容を表す別の表現を文章中から抜き出す	1ウ						○				○		38.9	36.7	35.2	20.2	20.4	19.8
4三	文章中に書かれている、会話の表情を表す擬音語・擬態語の特徴をまとめたものとして適切なものを選択する						1ウ		○		○			66.2	67.3	68.7	0.0	1.0	1.1
4四	二つの例文を比べながら、擬態語「きっぱり」が表している具体的な様子と擬態語の効果を書く						1オ		○				○	37.4	38.8	38.9	21.4	20.7	18.6

※岩見沢市の平均正答率が全国より「上回る」、無解答率が「下回る」場合
 ※岩見沢市の平均正答率が全国より「下回る」、無解答率が「上回る」場合



(3) 中学校国語 調査結果から見た課題等と指導改善のポイント

① 正答率の状況

国語科全体の平均正答率は62.1%で、全国水準に近い状況にある。

領域別にみると、「書くこと」は全国と同様の結果であり、目的や相手を意識して表現を工夫する力が身につけていることがうかがえる。

「話すこと・聞くこと」は、話したり、話し合いの内容から必要な情報を捉えたりする力は、一定程度身に付いている。

観点別にみると「知識・技能」は62.0%で、基礎的・基本的な知識・技能は、概ね定着している。

問題別にみると、「表現を工夫して書く」問題の正答率が高く、全国を上回った。「話し合いの内容を捉える」問題や、「文章の構成を捉える」問題から、全国とほぼ同水準であり、情報を整理し、内容を把握する力も一定程度身に付いている。

一方で、「文章中から意味の近い表現を見付ける」問題、「擬態語が表す様子や効果を書く」問題は正答率が低く、無解答率も高い状況である。

② 課題等

領域別では、「話すこと・聞くこと」の平均正答率は61.6%である。観点別では、「知識・技能」は62.0%で、知識を活用しながら考えを形成したり、相手の発言を受けて自分の考えを深めたりすることに課題がみられる。

問題別では、「『投げられる』の意味・用法を説明する」問題で全国との差が大きく、「『とる』の漢字を文脈に応じて判断する」問題の正答率は低く、語句や言葉の知識を文脈の中で活用する力に課題がみられる。

また、「話し合いを受けて自分の考えを書く」問題や「交流を基に自分の文章のよい点や改善点、今後生かしたいことを書く」問題は、全国と同程度であり、「言葉が表す様子や表現の効果を書く」問題は、正答率が低く、自分の考えを形成し、その根拠や表現の効果を説明することには十分な定着が見られない。

さらに、①でも示した「文章中から意味の近い表現を見付ける」問題、「擬態語が表す様子や効果を書く」問題は、無解答率が高く、一定数の生徒が「言葉の働きや表現の効果を具体的に捉え、それを言語化すること」に難しさを感じていることがうかがえる。

これらのことから、情報を取り出したり、内容を理解したりする力は概ね身につけている一方で、複数の情報を関連付けて考えを形成し、その根拠や表現の効果を説明することに課題があると考えられる。

③ 課題から考えられる指導改善のポイント

今回の結果は、「国語の力が弱い」と捉えるのではなく、情報を捉えたり、文章を書いたりする基礎的な力は一定程度身に付いている一方、捉えた情報を基に自分の考えを形成し、根拠を明確にして表現したり、他者との交流を通して考えを深めたりする場面で、力を十分に発揮できていないと捉えることが重要である。

今後は授業の中に、「情報を捉える→関連付ける→考えを形成する→表現する→振り返る」という学習過程を意図的に位置付けることが求められる。その際、①「何のために読む・聞く・書くのか」を明確にする ②必要な情報を自ら選択・整理する ③根拠を基に自分の考えを形成する ④相手や目的に応じて表現する ⑤交流を通して考えを見直し、次の学びに生かす場面を設定することが大切である。

特に、話し合い・読み取り・文章作成をそれぞれ独立した活動として扱うのではなく、「聞いたことを自分の考えに生かす」「読んだ文章の表現の工夫を自分の表現に生かす」など、学びをつなげる授業づくりを進めたい。教師が答えや文章の型を先に与えるのではなく、「どの情報を使うか」「なぜそう考えたか」「友達の考えを聞いて何が変わったのか」を生徒自身が判断・言語化する場面を増やすことが重要である。

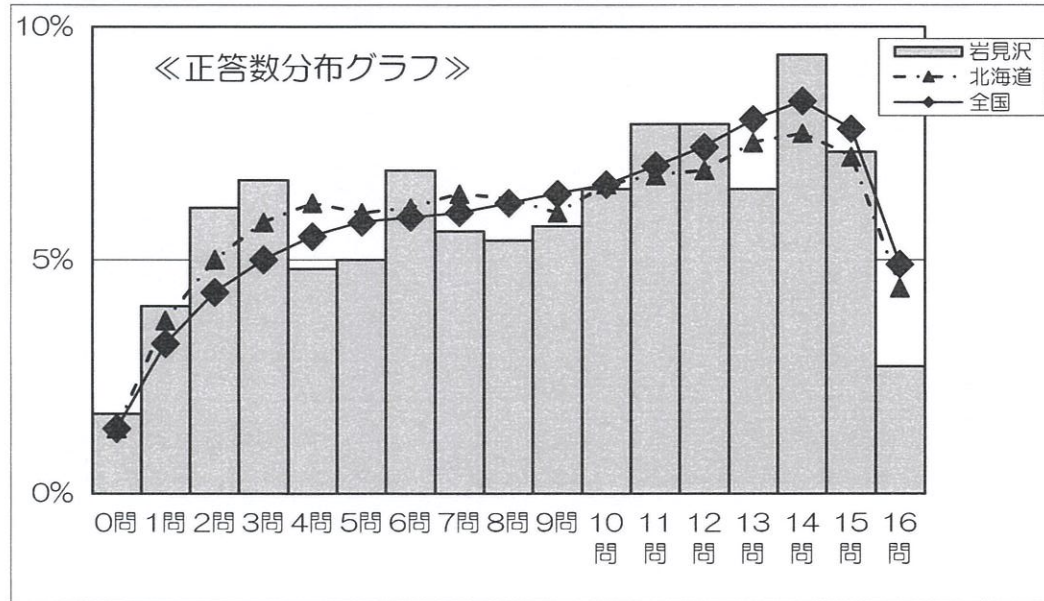
こうした授業改善が、身に付けたい資質・能力を明確にした「Can型」の学習課題、学び方を自ら選択する「自己決定」、自分の学びを捉え直す「振り返り」につながり、生徒が学びの意味や変化を実感する「学びを自分事にする」授業の実現につながっていくと考える。

4 中学校 数学

(1) 概要

- 平均正答率は54【54.3】%
- 平均正答率の小数值での比較では、全国との差は、-2.7ポイント

	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
岩見沢	522	8.7 / 16	54	9.0	4.5
北海道(公立)	32,580	8.8 / 16	55	9.0	4.5
全国(公立)	842,491	9.1 / 16	57.0	10.0	4.5



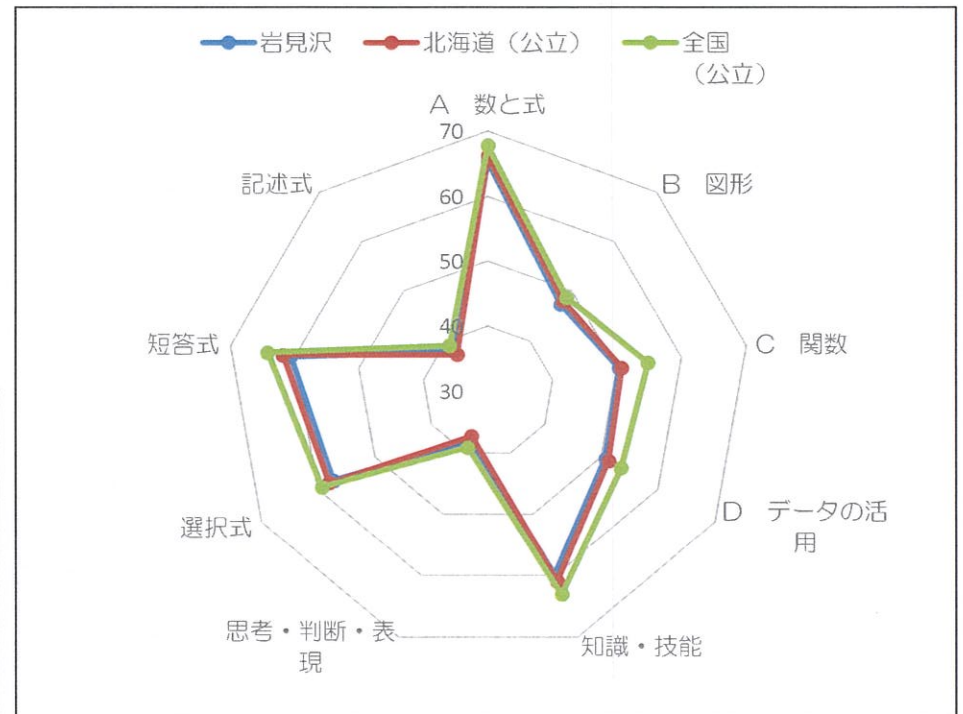
※横軸：正答数 縦軸：割合

《正答数ごとの層分布》

	0-4問	5-9問	10-12問	13-16問
岩見沢	23.3	28.6	22.3	25.9
北海道	22.1	30.8	20.3	26.8
全国	19.4	30.3	21	29.1

《学習指導要領の内容の平均正答率の状況》

分類	区分	対象 問題数 (問)	平均正答率（％）		
			岩見沢	北海道 (公立)	全国 (公立)
全 体		16	54.0	55.0	57.0
学習指導要領 の領域	A 数と式	5	65.4	66.2	67.8
	B 図形	4	47.3	47.9	48.7
	C 関数	3	50.3	50.7	54.8
	D データの活用	4	50.7	51.3	53.5
評価の観点	知識・技能	12	59.8	60.9	63
	思考・判断・表現	4	37.9	37.3	39.1
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	3	57.3	58	59.3
	短答式	9	60.6	61.8	64.2
	記述式	4	37.9	37.3	39.1



(2) 中学校数学 問題別集計結果

問題番号	問題の概要	学習指導要領の領域				評価の観点			問題形式			正答率(%)			無解答率(%)		
		A 数と式	B 図形	C 関数	D データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	岩見沢市	北海道(公立)	全国(公立)	岩見沢市	北海道(公立)	全国(公立)
1	2月3日のA市の最高気温が最低気温より何℃高くなったかを書く	1(1) ア(ウ)				○				○		84.1	85.3	85.7	0.4	0.5	0.6
2	$7x+9-5x+7x^2+2x$ から、 $7x$ の同類項をすべて書く	2(1) ア(ア)				○				○		68.4	68.3	70.5	2.3	2.3	2.2
3	四角形PQRSにおいて、PS平行QRを示すための根拠となる二つの角を書く		2(1) ア(ア)			○				○		50.6	50.5	49.1	1.9	3.0	2.8
4	反比例の表において、 x の値が-3のときの y の値を求める			1(1) イ(イ)		○				○		47.5	48.1	55.3	0.8	1.1	1.1
5	大小二つのさいころを同時に投げるとき、大きいさいころの目が6で小さいさいころの目が1である確率を求める				2(2) ア(イ)	○				○		56.1	55.9	60.2	5.0	5.6	4.8
6(1)	選んだ2数が3と6のときについて、陸斗さんの予想が成り立つことを示す式を書く	2(1) ア(エ)				○				○		71.1	71.8	73.2	7.7	7.9	6.6
6(2)	陸斗さんの予想がいつでも成り立つことを説明するための方針を完成するために、当てはまるものを選ぶ	2(1) ア(ウ)				○			○			60.5	63.9	65.0	0.2	0.6	0.6
6(3)	手順にしたがってできたAとBについて、 $A-B$ の値がどんな数になるかを、選んだ2数の差に着目して説明する	2(1) イ(イ)					○				○	42.7	41.5	44.6	26.8	29.9	26.5
7(1)	動画の時間とデータ量の関係を表すグラフにおいて、点Cの座標を書く			1(1) ア(ウ)		○				○		68.0	72.0	75.2	7.7	6.6	5.6
7(2)	データ量が1000MBになるときの動画の時間がおよそ何秒になるかを求める方法を説明する			1(1) イ(イ)			○				○	35.2	31.9	33.9	37.7	42.9	39.6
8(1)	$\angle AOB$ の大きさが a° のとき、 $\angle POB$ の大きさを a を用いた式で書く	1(1) ア(ア)				○				○		62.5	60.3	62.5	9.6	10.4	9.0
8(2)	図1において、 $AB=AP$ 、 $OB=OP$ ならば $\angle AOB=\angle AOP$ であることを、三角形の合同を基にして証明する		2(2) イ(イ)				○				○	41.6	45.1	46.1	25.9	25.1	22.2
8(3)	図2において、証明する事柄における仮定となる辺や角の関係を選ぶ		2(2) ア(イ)			○			○			34.5	35.7	37.1	0.4	1.0	1.0
9(1)	全校生徒の睡眠時間の度数分布表において、最小の階級から6時間以上7時間未満の階級までの累積度数を求める				1(1) ア(ア)	○				○		37.5	44.2	46.0	12.8	16.7	14.3
9(2)	学年別の睡眠時間について、学年別睡眠時間の箱ひげ図から読み取れることとして正しいものを選ぶ				2(1) ア(ア)	○			○			76.8	74.3	75.8	0.4	0.8	0.7
9(3)	「就寝時刻が23時より前の生徒と比べて、23時以降の生徒の方が睡眠時間が短い傾向にある」と主張できる理由を、悠真さんが調べたことの二つの度数分布多角形の形と位置を比較して説明する				1(1) イ(ア)		○				○	32.2	30.7	31.9	28.0	33.2	28.9

※岩見沢市の平均正答率が全国より「上回る」、無解答率が「下回る」場合

※岩見沢市の平均正答率が全国より「下回る」、無解答率が「上回る」場合

(3) 中学校数学 調査結果から見た課題等と指導改善のポイント

① 正答率の状況

数学科全体の平均正答率は54.3%で、全国水準に近い状況にある。

観点別にみると、「知識・技能」は59.8%、「思考・判断・表現」は37.9%といずれも全国を下回っており、数学的な事象について根拠を明確にして説明する力に課題がみられる。

領域別にみると、「数と式」は65.4%、「図形」は47.3%、「関数」は50.3%、「データの活用」は50.7%で、特に全国との差がある「関数」に課題がみられる。

問題別にみると、「気温の差を求める」問題、「具体的な数値を用いて予想が成り立つことを式で示す」問題は、全国より正答率は低いものの基本的な数量関係を捉え、処理する力には概ね定着がみられる。

一方、「グラフから比例関係を捉えて求め方を説明する」記述式問題、「二つのデータを比較して理由を説明する」記述式問題の正答率は、全国を上回っているものの、無解答率が高く、数学的な根拠をもって説明する力の定着に課題がみられる。

② 課題等

観点別では、「知識・技能」の平均正答率が59.8%で、「思考・判断・表現」が37.9%である。特に、既習事項を活用して数学的な事象を捉え、「何に着目したのか」「なぜその方法を選んだのか」、根拠を明確にして説明することに課題がみられる。

領域別では、「関数」が今回の結果の中で全国平均との差が最も大きい。

問題別では、「反比例の関係を表から捉えて値を求める」問題、「座標を読み取る」問題では、それぞれ全国平均を7ポイント以上、下回っていることから、表やグラフを見て数量関係を正確にとらえることにも課題が見られる。

「図形」では、「合同を基に証明する」記述式問題は、全国平均を下回り、無解答率が高い。また、「証明の根拠となる辺や角の関係を捉える」問題は、全国平均と比べても低い正答率であることから、図形の性質を用いて根拠を明確にし、論理的に説明することに課題がみられる。

「データの活用」では、「度数分布表から累積度数を求める」問題で、全国平均を大きく下回った。一方、「箱ひげ図から読み取れることを判断する」問題は、全国平均を上回っており、データを比較・解釈する力には成果がみられる。

以上のことから、「数学の知識・技能が全般的に不足している」と捉えるのではなく、「知識・技能を活用して、何に着目し、なぜその方法を選んだのかを数学的な根拠をもって説明すること」に課題があると捉えることが重要である。

③ 課題から考えられる指導改善のポイント

今回の結果を踏まえ、単に問題演習の量を増やすのではなく、「数学的な見方・考え方を働かせ、根拠をもって説明する」学習へと授業を転換することが求められる。

今後は、①「何を求めるのか」を明確にする ②表・式・グラフ・図などから必要な情報を自ら選ぶ ③どの数量関係や性質に着目したのかを明確にする ④自分の考えを説明・比較する ⑤他者の考えを基に考えを修正・更新し、学び方を振り返る、という学習過程を授業の中に意図的に位置付ける。

特に「関数」では、表→式→グラフ→言葉を往還させ、グラフが表す数量関係を説明する活動を充実させる。「図形」では、証明を書く前に「仮定・結論・使える性質・必要な条件」を整理し、証明の構造を捉える活動を行う。「データの活用」では、計算だけで終わらず、データを比較・分析し、その根拠をもって判断する活動を重視する。

さらに、記述式問題で無解答が多い状況を踏まえ、教師が説明を求めるだけでなく、「何に着目したか」「どの性質や数量関係（情報）を使ったか」「なぜその方法が成り立つか」を明確にする問いを設定する。また、教師が解法を一方的に示すのではなく、生徒自身が解決方法を選択し、その根拠を説明・比較・振り返る場を増やすことが、「Let's型からCan型へ」「自己決定」「振り返り」「学びを自分事にする」という授業改善にもつながる。

5 中学校 英語

(1) 概要

- CBTシステムによるオンライン方式での実施
- 平均IRTスコアは、476
- 平均IRTスコアの比較では、全国との差は、－23ポイント

《平均正答数集計値》

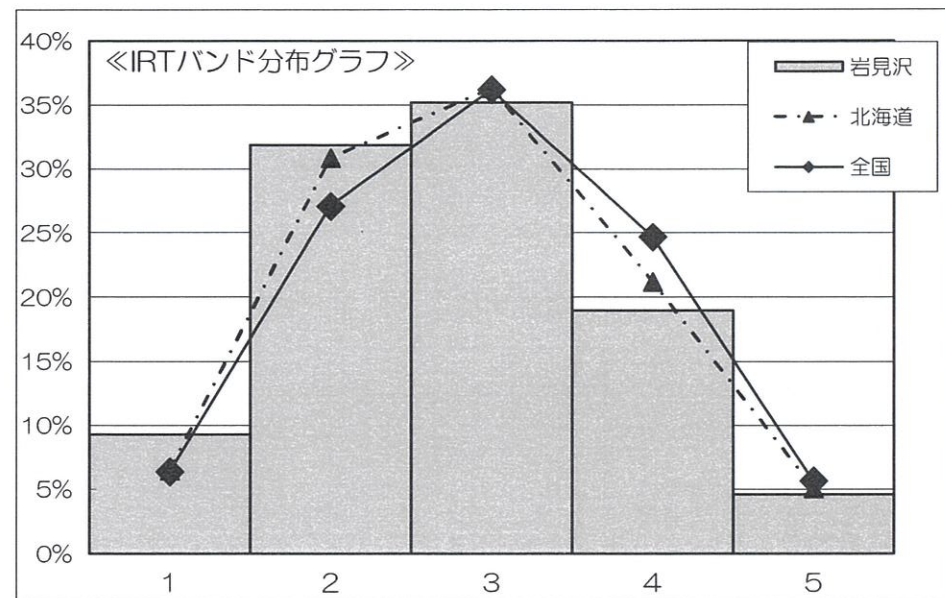
	生徒数	平均正答数	標準偏差
岩見沢	495	4.2 / 9	2.4
北海道	31,033	4.2 / 9	2.5
全 国	46,645	4.5 / 9	2.5

《技能別平均正答数集計値》

	聞くこと	読むこと・書くこと	話すこと
岩見沢	1.1 / 2	2.5 / 5	0.6 / 2
北海道	1.2 / 2	2.4 / 5	0.6 / 2
全 国	1.2 / 2	2.6 / 5	0.7 / 2

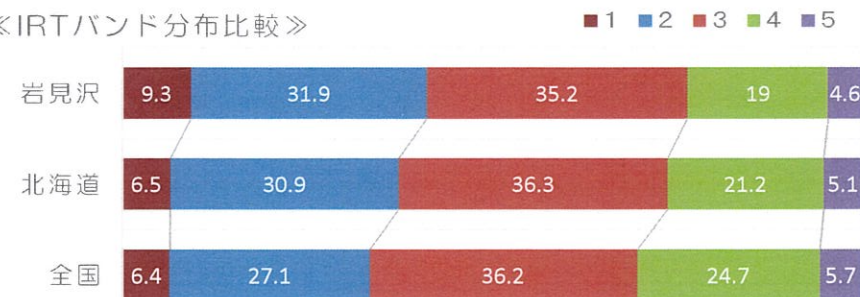
《IRTスコア集計値》

	平均IRT スコア	標準偏差	パーセンタイル値				
			10%	25%	50%	75%	90%
岩見沢	476	109.6	346	399	475	553	607
北海道	490	107.1	361	413	484	562	626
全 国	499	108.1	363	422	498	575	641



※ 横軸：IRTバンド 縦軸：割合

《IRTバンド分布比較》



(2) 中学校英語 問題別集計結果(公開問題)

問題番号	問題の概要	学習指導要領の領域					評価の観点			問題形式			正答率(%)			無解答率(%)			問題の難易度
		(1) 聞くこと	(2) 読むこと	(3) 話すこと [S]	(4) 話すこと [発表]	(5) 書くこと	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式／口述式	記述式／口述式	岩見沢市	北海道(公立)	全国(公立)	岩見沢市	北海道(公立)	全国(公立)	
1	注文の場面での店員と客の会話を聞き、客が注文したものを を選択する	○※					○			○			55.4	60.0	60.2	0.2	0.1	0.2	4
2	ショッピングセンターでのアナウンスを聞き、行くべき階を を選択する	ア						○		○			73.2	77.9	78.5	0.0	0.1	0.1	3
3	学校見学についての説明を聞き、行くべき場所を選択する	ア						○		○			69.9	75.2	76.0	0.0	0.1	0.1	3
4	職場体験についての発表を聞き、その後に表示される3枚の 絵を体験した順になるように選択する	イ						○		○			43.7	41.7	43.8	0.0	0.2	0.3	4
5	住みやすいまちづくりに関する発表を聞き、話し手が最も 伝えたいことを選択する	ウ						○		○			56.2	55.5	55.6	0.4	0.3	0.2	4
6	文章を読み、グラフの空所に入る学校行事を選択する		○※				○			○			65.3	67.2	67.3	0.8	1.0	1.1	3
7	誕生日パーティーに関するメールを読み、最も適切な時刻を を選択する	ア						○		○			66.7	69.9	72.4	0.6	0.1	0.1	3
8	友達からのメッセージを読み、相手が示した条件に合う ウェブサイトを選択する	ア						○		○			56.8	59.8	63.8	0.0	0.1	0.1	3
9	物語を読み、物語全体を通して登場人物の気持ちの変化を 表したものを選択する	イ						○		○			42.3	47.6	49.0	0.0	0.1	0.1	5
10 (1)	インターネットの使用に関する文章を読み、書き手が最も 伝えたいことを選択する	ウ						○		○			50.2	46.1	47.5	0.4	0.1	0.2	4
10 (2)	インターネットの使用に関して読んだことについて、考え とその理由を書く					ウ		○				○	20.1	24.5	27.8	17.8	16.2	14.6	5
11 ①	与えられた情報に基づいて、留学生の昨日の出来事を説明 する英文を書く					ア	○				○		48.5	52.5	58.9	3.3	2.8	2.5	3
11 ②	与えられた情報に基づいて、留学生の昨日の出来事を説明 する英文を書く					ア	○				○		48.1	47.2	52.7	4.2	3.2	3.0	3
12	中学生になってからの思い出を1つ取り上げ、そこで体験 したことと感想を書く					イ		○				○	40.5	43.5	47.5	10.7	10.3	8.7	4
13	留学生との交流会で一緒にしたいことを1つ取り上げ、そ の理由を書く					イ		○				○	39.8	41.0	44.0	12.5	10.9	9.3	4
14	学校で普段行うことを1つ取り上げ、それについての説明 を書く					イ		○				○	21.3	25.6	27.8	17.2	15.5	14.2	4
15 (1)	電話でのやり取りの中で、遊ぶ約束をしている留学生に明 日の天気を伝える			○※			○				○		35.4	40.4	42.3	14.0	13.5	9.2	5
15 (2) a	電話でのやり取りの中で、遊ぶ約束をしている留学生から の質問を聞き、明日しようと思っていることを伝える			○※			○				○		25.2	29.9	33.5	19.3	16.6	12.0	4
15 (2) b	電話でのやり取りの中で、遊ぶ約束をしている留学生に自 分の家に来てもらうように依頼する			○※			○				○		20.1	28.1	32.1	18.7	21.0	13.4	4
16	留学生と一緒にしたいことを1つ取り上げ、その理由を話 す				イ			○				○	48.1	51.8	53.5	15.4	14.9	11.3	4
17	自分の好きな人物を1人取り上げ、好きな理由を話す				イ			○				○	35.9	44.6	48.0	17.2	16.7	12.1	4
18	自分のまちを訪れるのにおすすめの季節を1つ取り上げ、 その理由を話す				イ			○				○	18.5	19.7	21.5	11.7	17.7	13.5	5
19	学校生活をよりよくする方法に関して聞いたことについ て、考えとその理由を話す				ウ			○				○	23.3	22.3	25.8	22.9	24.2	17.0	5

※岩見沢市の平均正答率が全国より「上回る」、無解答率が「下回る」場合

※岩見沢市の平均正答率が全国より「下回る」、無解答率が「上回る」場合

(3) 中学校英語 調査結果から見た課題等と指導改善のポイント

① 正答率の状況

英語科の平均IRTスコアは476で、全国499との差は-23ポイントであった。

IRTバンドの分布をみると本市ではバンド3に約35.2%が分布し、全国とほぼ同様の傾向がみられる。バンド1とバンド2は、全国より多く見られる。バンド4とバンド5は全国より少ない。バンド1とバンド2の生徒の基礎的な知識・理解の定着とバンド4以上の生徒への発展的な課題への取組が必要と思われる。

領域別・問題別に正答率をみると、「聞くこと」では、「アナウンスから行くべき階を選ぶ」問題、「学校見学の説明から行くべき場所を選ぶ」問題、「職場体験の順序を捉える」問題は全国とほぼ同水準であり、必要な情報を聞き取る力は一定の成果が見られる。また、「話し手が最も伝えたいことを捉える」問題では、全国を上回っている。一方、「注文の場面で必要な情報を聞き取る」問題は、全国を下回っている。

「読むこと」では、「文章とグラフから学校行事を読み取る」問題、「メールから適切な時刻を読み取る」問題等、明示された情報を取り出す力には一定の成果が見られる。文章の要点を捉える問題は、全国を上回っている。一方、「文章を読んで条件に合うものを選ぶ」問題、「物語全体を通した登場人物の気持ちの変化を捉える」問題は、全国を下回っており、複数の情報を関連付けて判断したり、文章全体を捉えることに課題がある。

「書くこと」では、「読んだことについて、考えとその理由を書く」問題の正答率は全国より低く、無解答率も高かった。また、「与えられた情報に基づいて英文を書く」問題の正答率や無解答率は、全国との差が比較的大きい。このことから、聞いたり、読んだりして受け取った情報を基に考え、理由や具体を加えて英語で表現する力の育成が重点課題である。

「話すこと〔やり取り〕」は、全国平均より低くなっている。「話すこと〔発表〕」は、全国平均より低く、無解答率が高かった。これらの結果から、相手の発話を受けてその場で考えを整理し、理由を付けて自分の考えを英語で伝える力についても課題が見られる。

② 課題等

成果として、「聞くこと」では、全国とほぼ同水準、または上回っており、話の流れや要点を捉える力に一定の成果が見られる。「読むこと」では、「明示された情報を取り出す」問題や、「要点を捉える」問題で一定の力が見られる。選択式の問題では無解答率が概ね低く、問いに対して情報を捉えて答えようとする姿勢がうかがえる。

課題として、「読むこと」では、複数の情報を関連付け、文章全体の意味や登場人物の心情の変化を捉える力、「書くこと」では、読んだ内容や与えられた情報を基に自分の考えを形成し、理由・具体を加えて表現する力、「話すこと」では、相手の発話を受けてその場で考えを整理し、目的や場面に応じて伝える力の育成が挙げられる。特に、書く・話す場面では無解答率が高く、表現する内容を考えることと、英語で表現する力に課題がある。単独で英文を作る学習だけでなく、相手意識・目的意識をもって英語を使う活動を増やす必要がある。

したがって、今後は「聞く・読む」で得た情報を答えて終わるのではなく、「情報を整理する→関連付ける→自分の考えを形成する→話す・書く→振り返る」という一連の学習過程を重視することが必要である。

③ 課題から考えられる指導改善のポイント

今後は、「英作文やスピーキングの練習量を増やす」のではなく、①「何のために伝えるのか」を明確にする ②必要な情報を選択・整理する ③情報を関連付けて自分の考えを形成する ④相手や目的、場面に応じて英語で表現する ⑤伝わり方を振り返り、表現を修正する、という学習過程を授業に位置付けることが重要である。

具体的には、(1)「読む・聞く」活動の後に「何が分かったか」「どの情報を根拠にそう考えたか」を短時間でも言語化する (2)書く前にペアで伝え合い、「自分の考え+理由+具体」を整理する (3)教科書本文や資料から得た情報を別の場面で活用する課題を設定する (4)相手からの質問や反応に応じて、その場で言い換えたり、書き直したり、付け加えたりする活動を日常化する (5)伝わったか、理由や具体が十分だったかを振り返り、再度話す・書く機会を設けるといった活動を日常化する。

また、学習課題を「英文を書きましょう」「発表しましょう」という「Let's型」にとどめず、「学校生活について、自分の考えと理由を英語で伝えることができる」等、身に付ける資質・能力が明確な「Can型」へ転換することが重要である。その際、「どの情報を使うか」「なぜそう考えたか」「どうすれば相手に伝わるか」を生徒自身が判断する場面を増やすことで、自己決定と振り返りを促し、「学びを自分事」にする授業改善につなげていく。

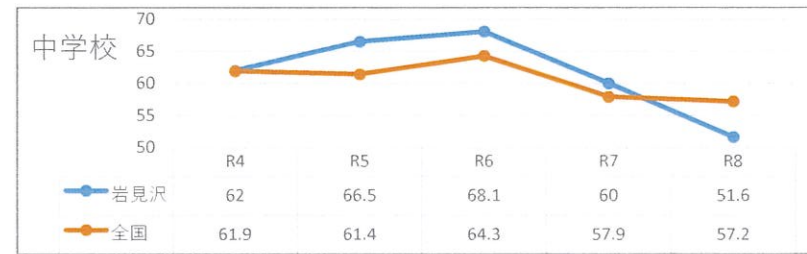
IV 児童生徒の質問調査の結果

1 学習について

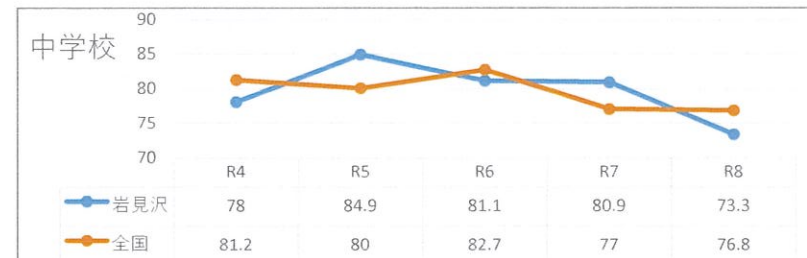
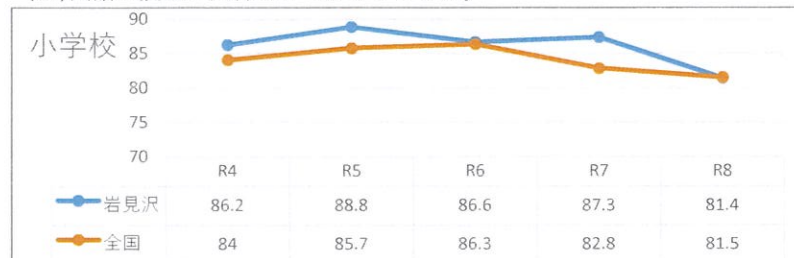
(1) 小・中学校国語

- ・小・中学校国語についての設問において全国と概ね同様の傾向が見られるが、本市児童生徒の顕著な回答として次のことが挙げられる。
- ・(53)「国語の勉強は好きですか」の問いに肯定的に回答している割合は、小学校は上回っているが、中学校では本年度、下回っている。
- ・(54)「国語の授業の内容はよく分かりますか」の問いに肯定的に回答している割合は小・中学校共に大きく減少した。
- ・(55)「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」の問いに肯定的に回答している割合が小・中学校共に全国と同様であるが、中学校はやや減少した。

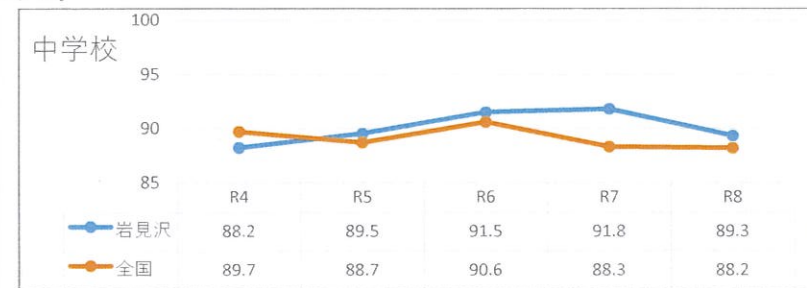
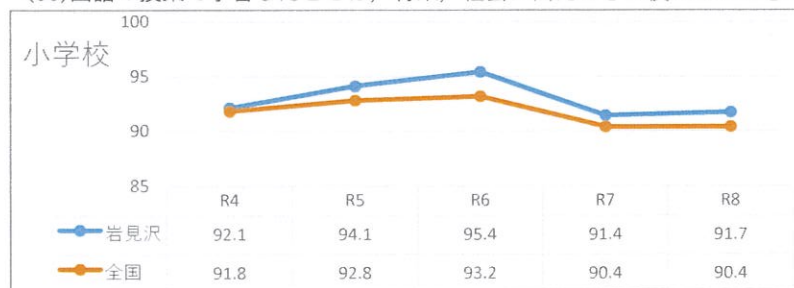
(53)国語の勉強は好きですか。



(54)国語の授業の内容はよく分かりますか。



(55)国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。



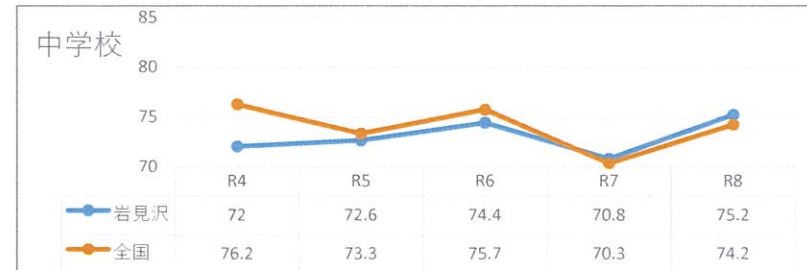
(2) 小・中学校算数（数学）

- ・小・中学校算数（数学）についての設問において全国と概ね同様の傾向が見られるが、本市児童生徒の顕著な回答として次のことが挙げられる。
- ・(61)「算数（数学）の勉強は好きですか」の問いに肯定的に回答している割合は、小学校は同様であるが、中学校本年度上昇し、全国を上回っている。
- ・(62)「算数（数学）の授業の内容はよく分かりますか」の問いに肯定的に回答している割合は小学校はやや減少したが、中学校は大きく上昇した。
- ・(63)「算数（数学）の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」の問いに肯定的に回答している割合が小学校は全国と同様であるが、中学校は上昇したものの、小・中学校の数値の差は大きい。

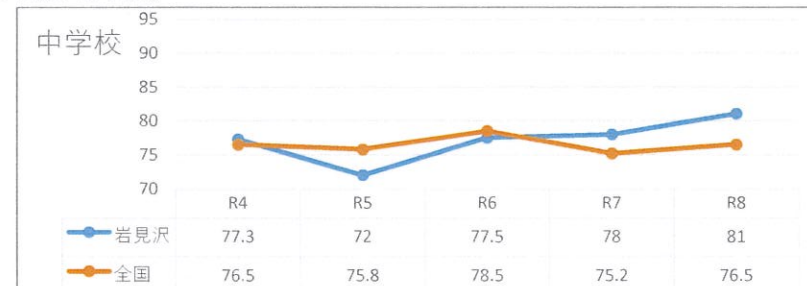
(61)算数（数学）の勉強は好きですか。



(62)算数（数学）の授業の内容はよく分かりますか。



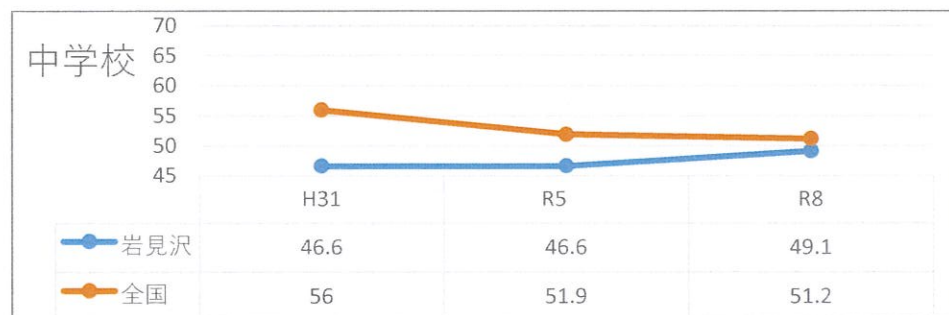
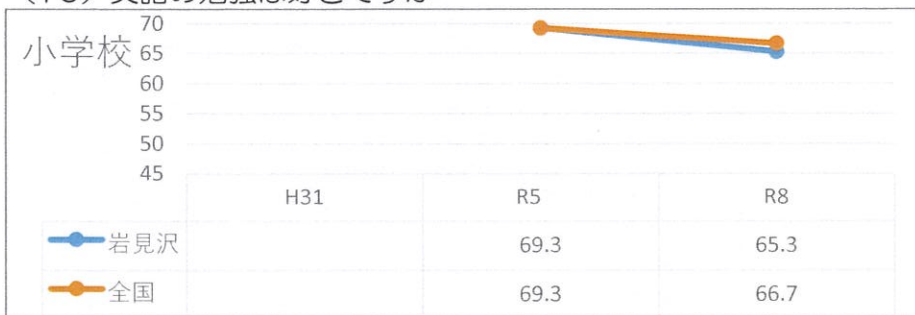
(63)算数（数学）の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。



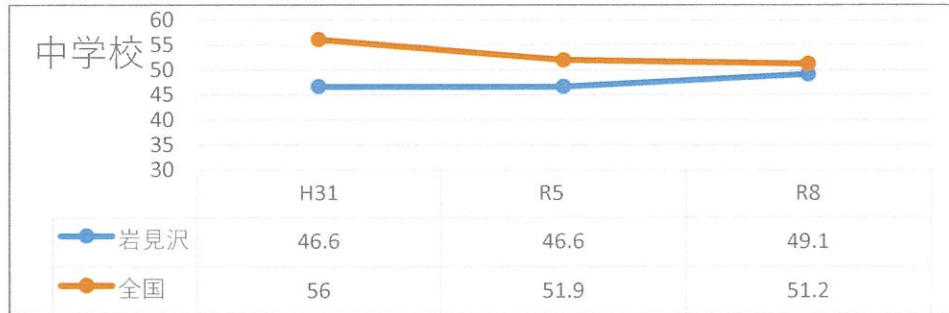
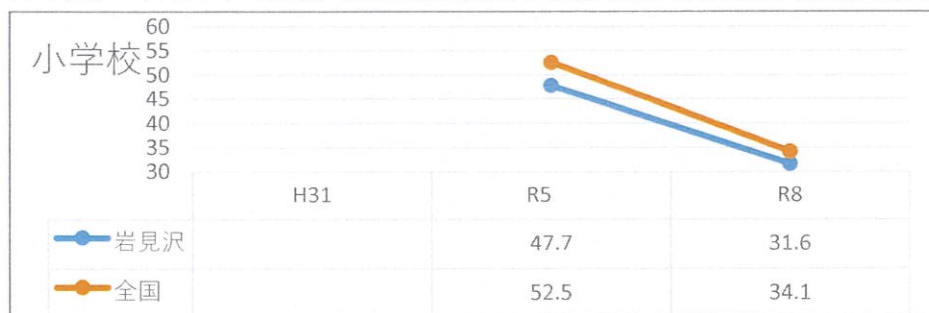
(3) 小・中学校英語

- ・小・中学校英語の設問への回答において全国とほぼ同様の傾向がみられ、本市児童生徒の顕著な回答として次のことが挙げられる。
- ・(70)「英語の勉強は好きですか」の問いに肯定的な回答の割合が、小・中学校共に全国とほぼ同様だが、中学校は小学校からの肯定的回答が大きく減少する。
- ・(71小) (73中)「将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたいと思いますか」の問いに肯定的な回答の割合が、小学校は全国と同様だが、大きく減少、中学校は全国と同様で増加傾向にある。
- ・(71中)「英語の授業の内容はよく分かりますか」の問いに肯定的な回答の割合は、4.5ポイント減少し、全国より低くなっている。

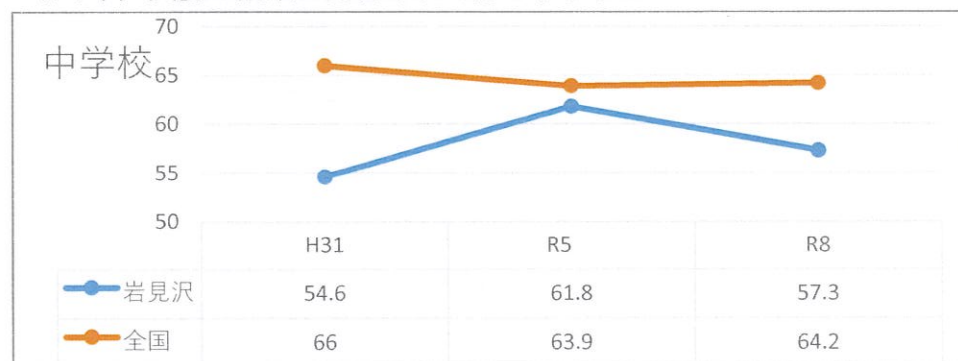
(70) 英語の勉強は好きですか



(71小) (73中) 将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたいと思いますか



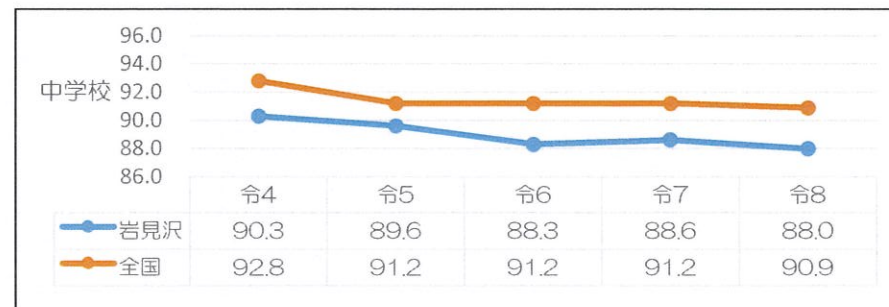
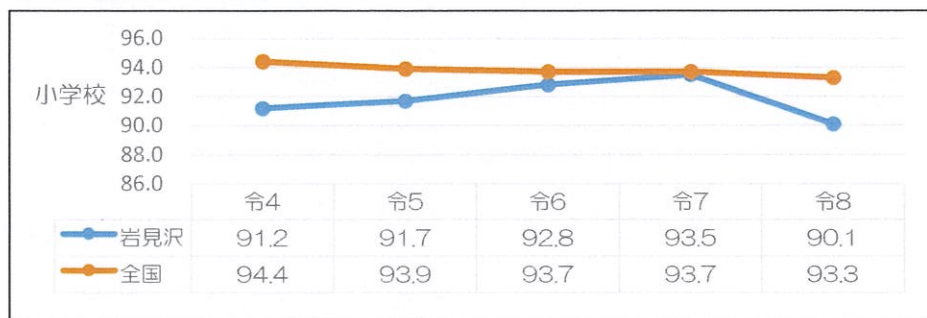
(71中) 英語の授業の内容はよく分かりますか



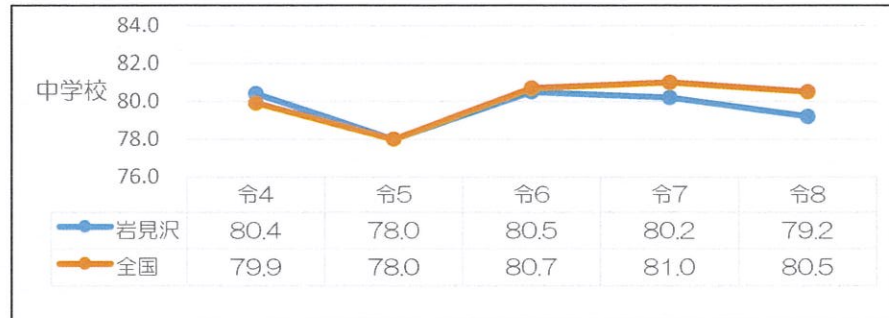
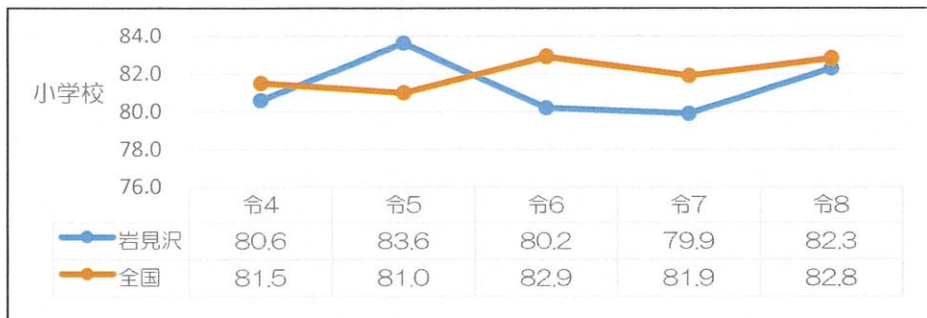
2 基本的生活習慣

- ・「朝食を毎日食べていますか」という設問に対する肯定的な回答は小・中学校共に全国と同様だが、小学校は3.4ポイント減少した。
- ・「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」という設問に対する肯定的な回答は小・中学校共に全国と同様で、小学校はやや上昇した。
- ・「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」の設問に対する肯定的な回答は、小・中学校共に全国とほぼ同様だが小学校は3.3ポイント減少している。
- ・「普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、スマートフォン等でSNSや動画視聴などをしますか」という設問に関して4時間以上と回答する児童生徒は R6年度より減少しているものの、全国と比べ小学校で7.6ポイント、中学校で7.5ポイント上回っている。

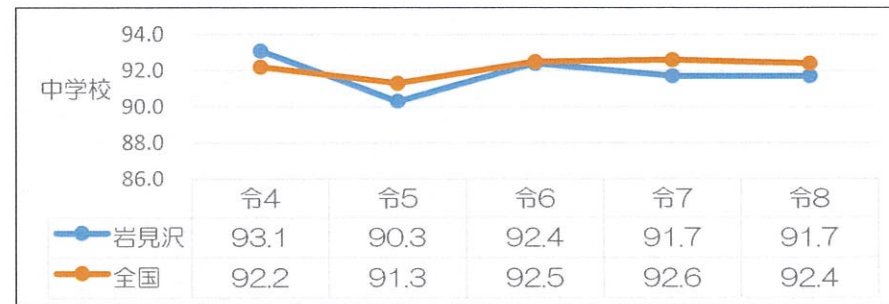
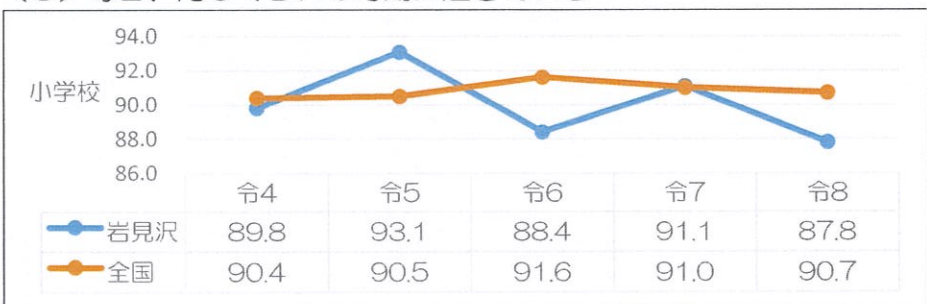
(1) 朝食を毎日食べている



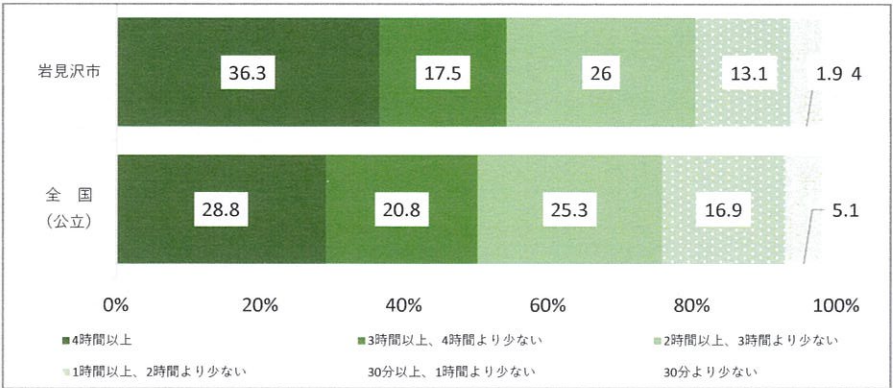
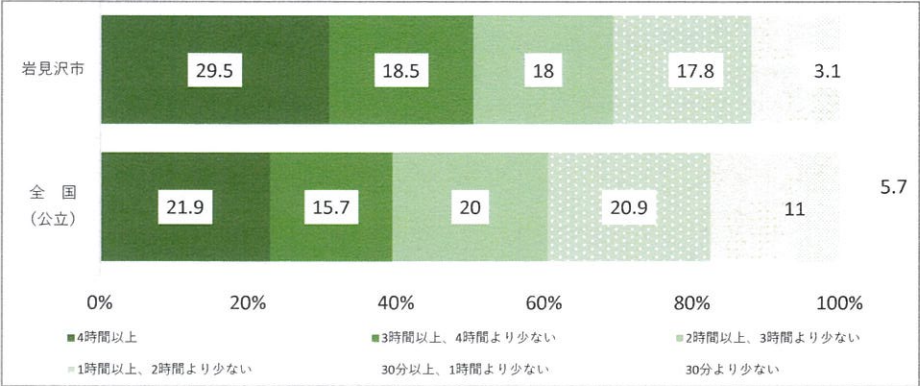
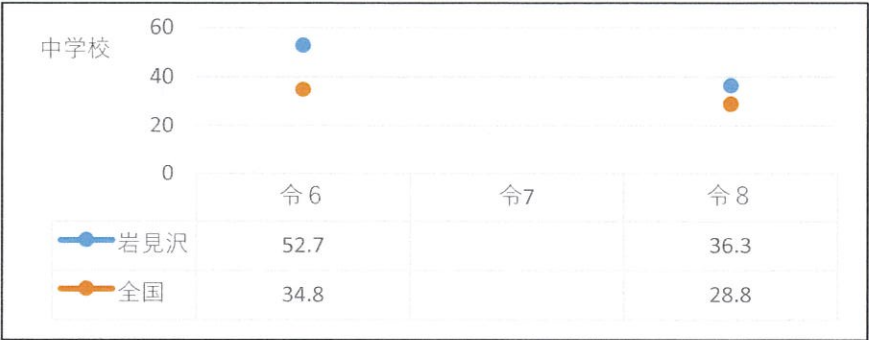
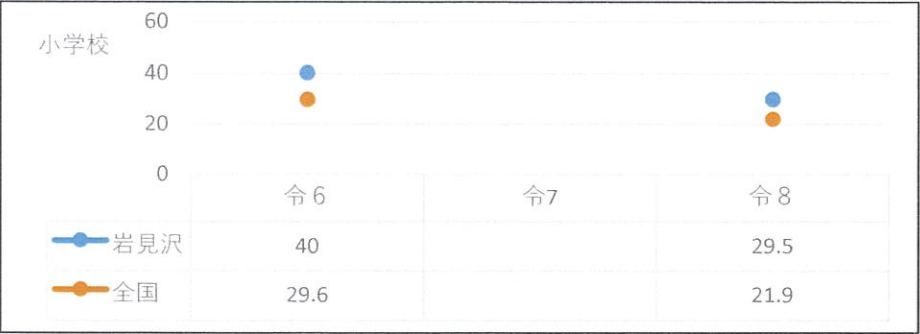
(2) 毎日、同じくらいの時刻に寝ている



(3) 毎日、同じくらいの時刻に起きている



(4) 普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、スマートフォンや携帯電話、パソコン、タブレット、ゲーム機、テレビ等（以下、「スマートフォン等」）でSNSや動画視聴などをしますか（スマートフォン等を使って学習する時間やゲームをする時間は除く）
 ※4h以上



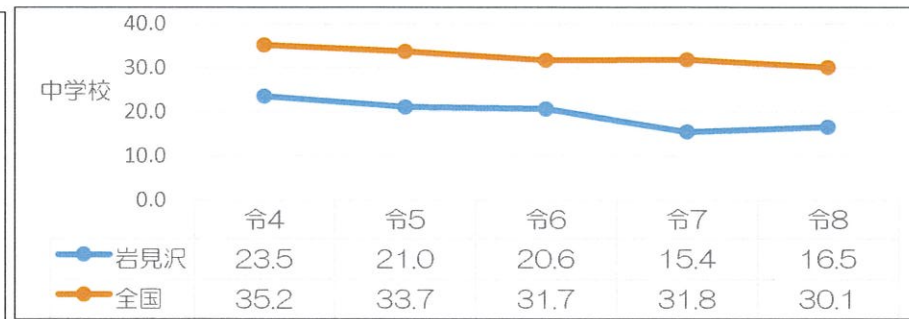
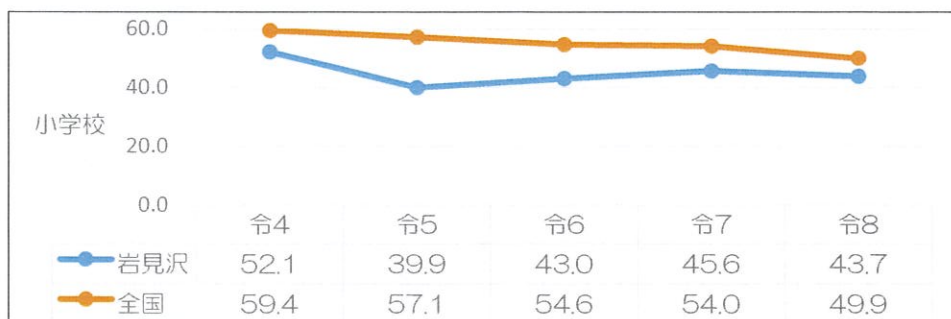
3 学習習慣 等

「普段、家庭学習を行っている時間」で、小学校1時間以上、中学校2時間以上と回答した児童生徒の割合は全国と比べて、小学校は6.2ポイント、中学校は微増したものの13.9ポイント下回っている。

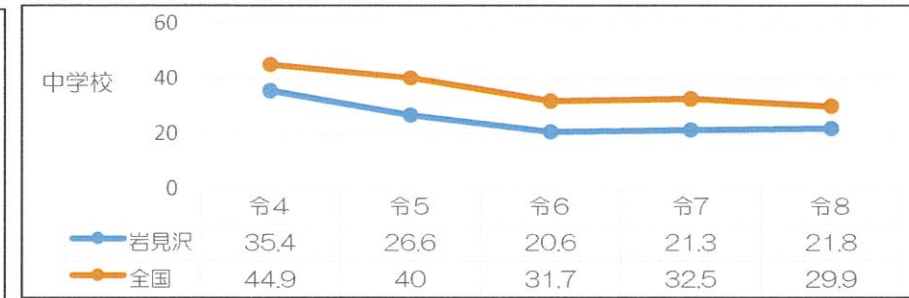
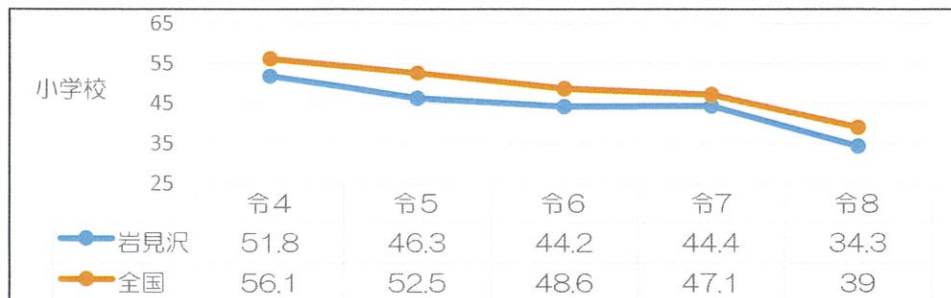
ICT機器を家庭学習などで使用している割合は小学校で5.2ポイント、中学校でも0.5ポイント全国より上回っている。

※小学校1時間以上、中学校2時間以上勉強している割合

(23) 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含みます）。※小学校1時間以上、中学校2時間以上

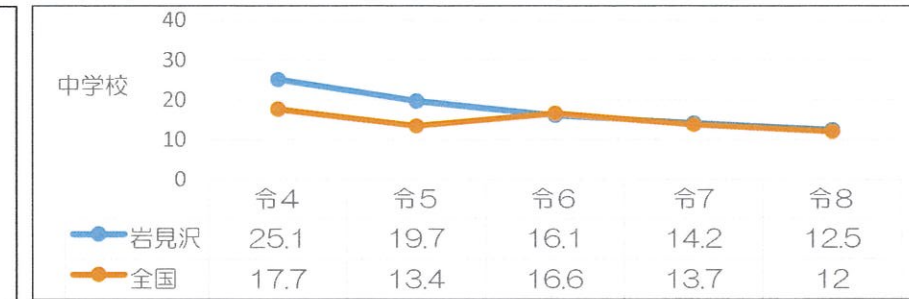
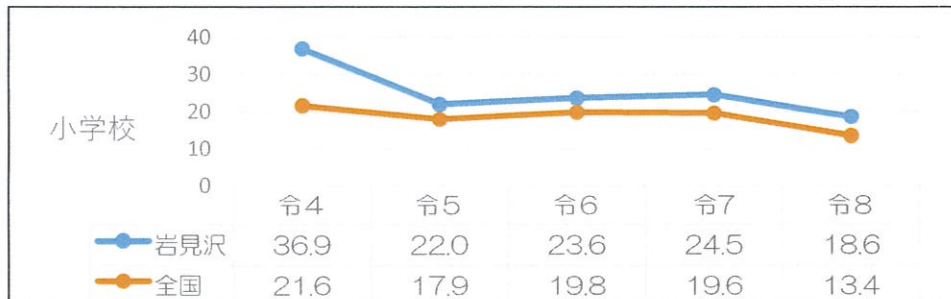


(25) 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。※小学校1時間以上、中学校2時間以上



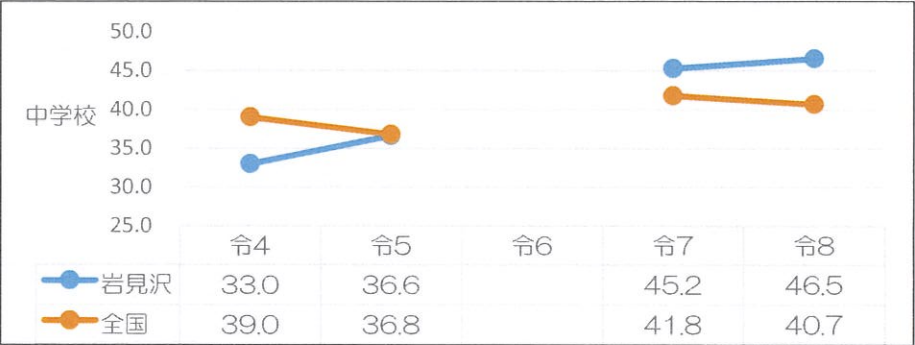
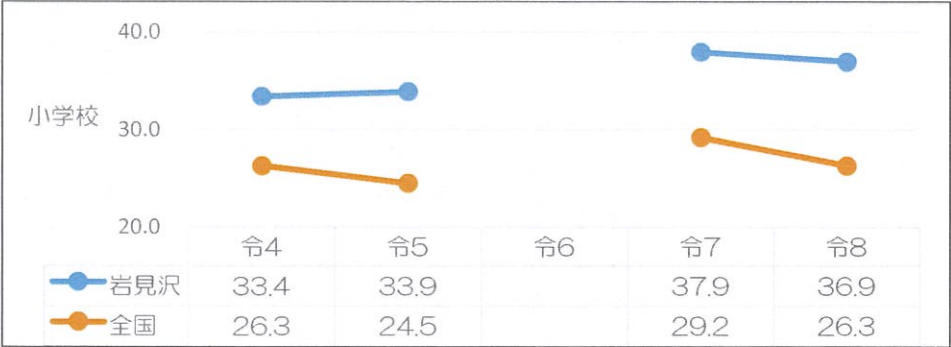
(24) 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか（遊びなどの目的に使う時間は除く）。

※小・中学校1時間以上



(26) 学校の授業時間以外に、普段（月曜から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（電子書籍の読書も含みます。教科書や参考書、漫画や雑誌は除きます）。

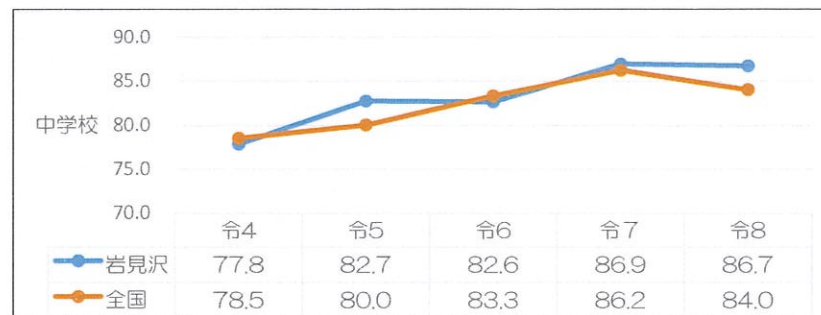
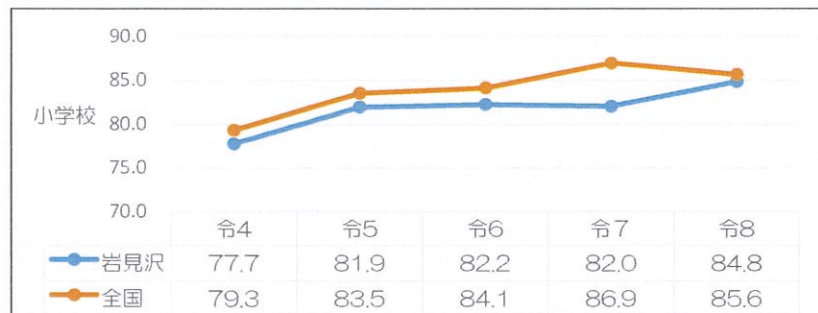
※「全くしない」と回答した児童生徒



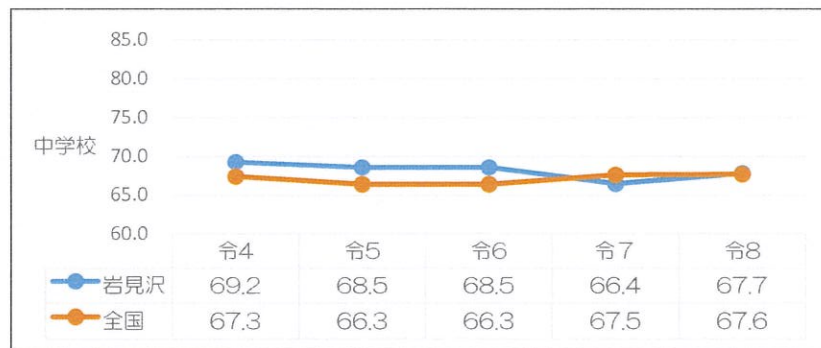
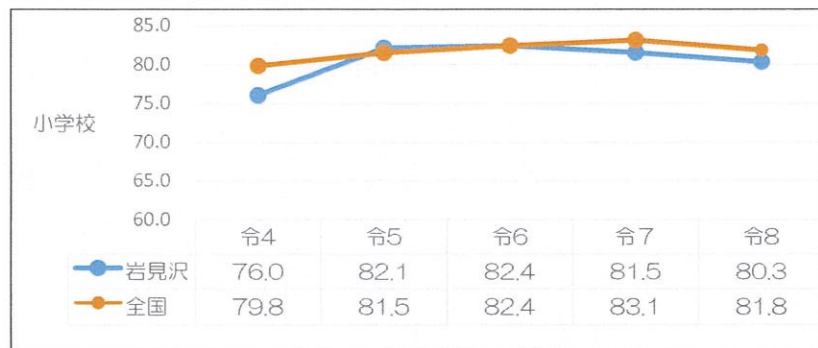
4 自己有用感に関する状況

「自分には、よいところがあると思いますか」という設問に対する肯定的な回答は、全国と比べて小学校は同様に、昨年度より2.8ポイント上昇した。中学校は微減の横ばい状態であるが、全国と比べると2.7ポイント上回っている。
「学校へ行くのは楽しいと思いますか」に対する肯定的な回答が、小・中学校共にやや減少し、全国より低い状態である。

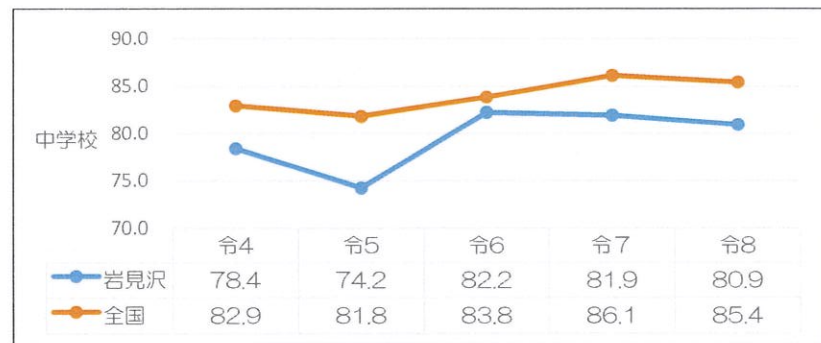
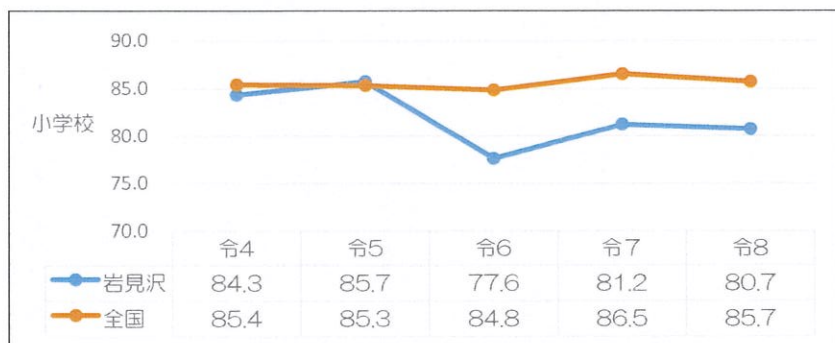
(8) 自分には、よいところがあると思う



(10) 将来の夢や目標を持っている



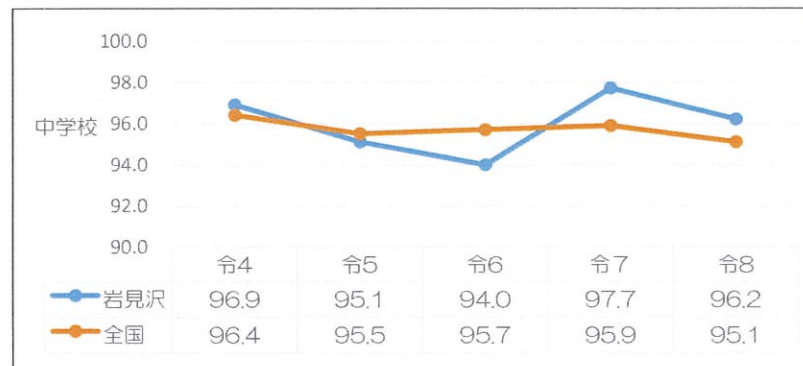
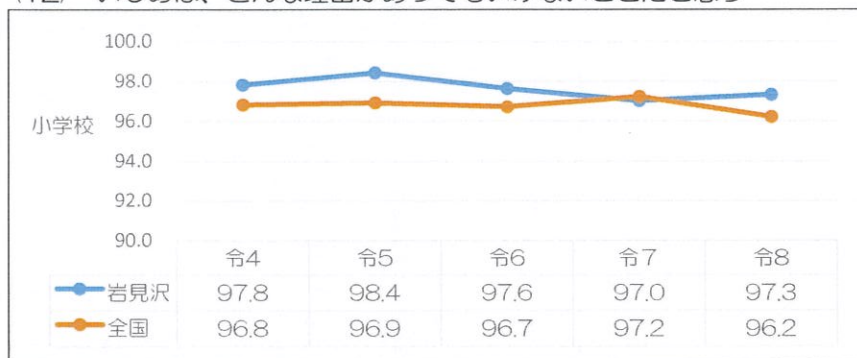
(15) 学校へ行くのは楽しいと思う



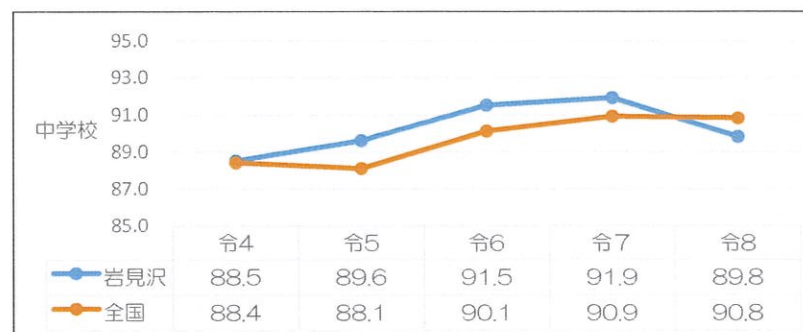
5 規範意識に関する状況

「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」という設問に対する肯定的な回答は、小・中学校共に全国と同様であり、全国を上回っている。「人が困っている時は、進んで助けていますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」という設問に対する肯定的な回答は、小・中学校共に全国と同様である。

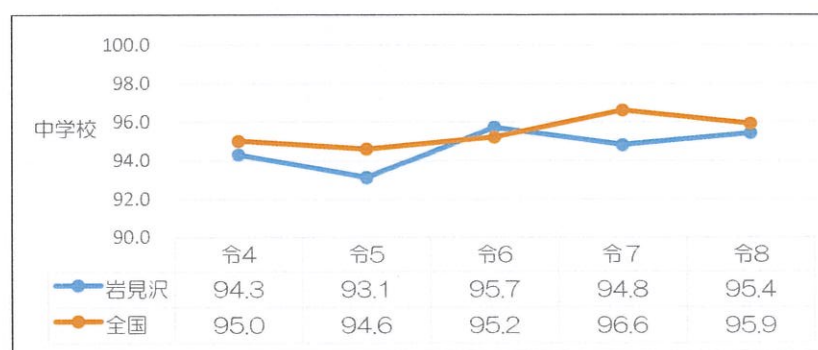
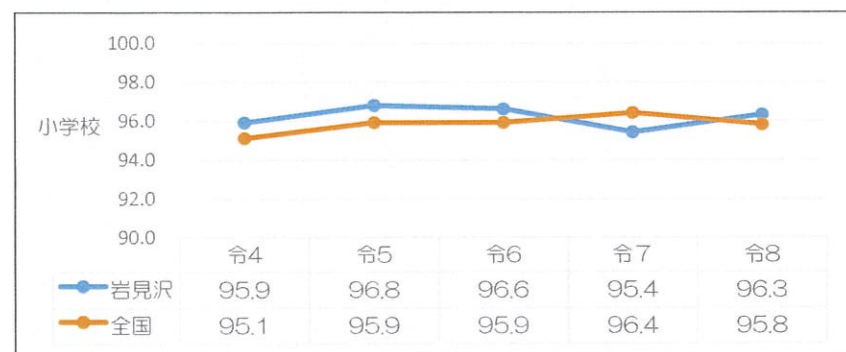
(12) いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う



(11) 人が困っている時は、進んで助けている



(14) 人の役に立つ人間になりたいと思う

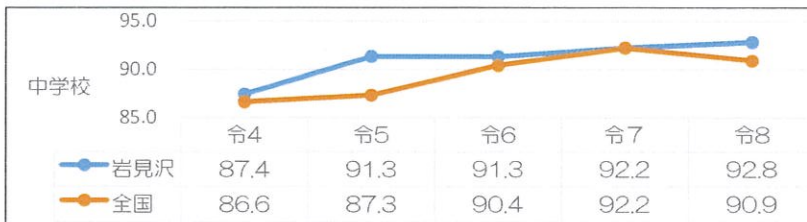
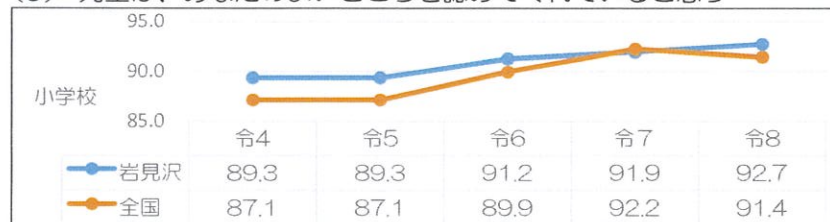


6 学習意欲等に関する状況

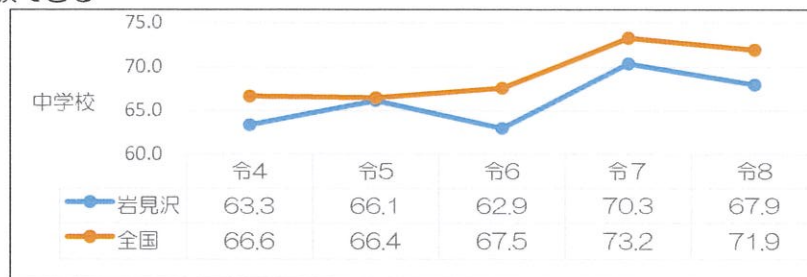
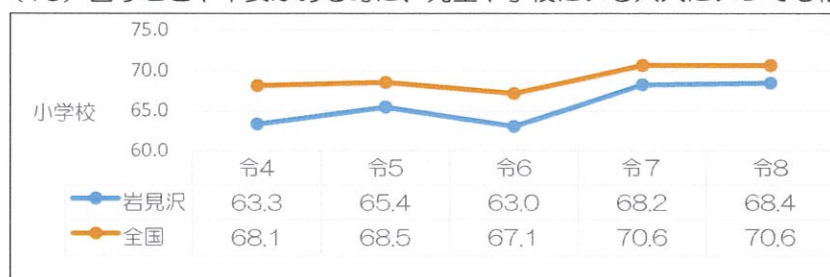
「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」という設問に対する肯定的な回答は、小・中学校共に全国と同様で、4年間の経年変化において小・中学校共、上昇傾向が続き、91%以上となっている。また、「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」については、小学校は上昇傾向であるが、中学校は昨年度より減少し、全国より4ポイント低くなっている。

「5年生まで（1、2年生のとき）に受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間となっていた」「先生は授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思う」という設問に対する肯定的な回答は、小学校でやや減少したものの、中学校は全国を上回っている。

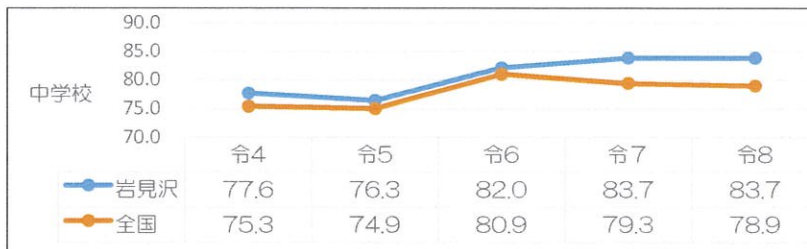
(9) 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う



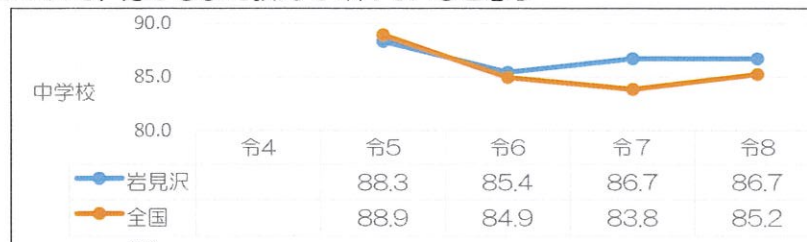
(13) 困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる



(41) 5年生まで（1、2年生のとき）に受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間となっていた



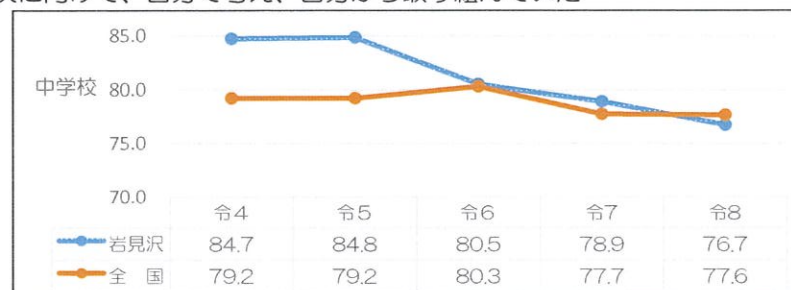
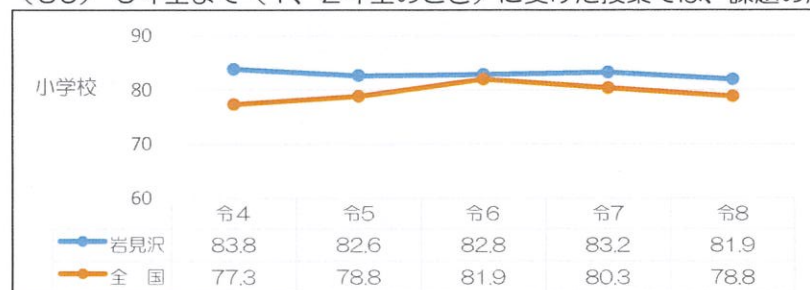
(45) 先生は授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思う



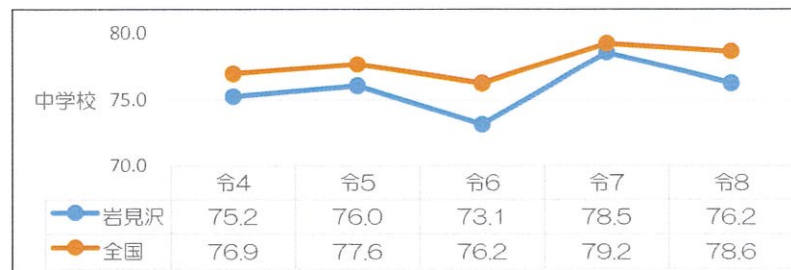
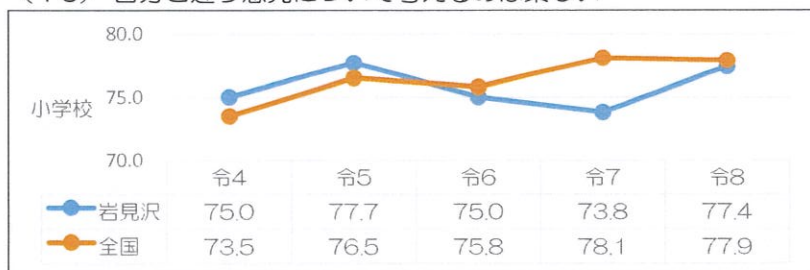
7 主体的・対話的な学び

「5年生まで（中1・2年生のとき）に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」という設問に対する肯定的な回答は、小学校は昨年度より1.3ポイント減少したものの全国を3.1ポイント上回っていて、中学校は昨年度より2.3ポイント減少し、全国より2.4ポイント下回っている。「自分と違う意見について考えるのは楽しい」という設問は、小学校では3.6ポイント上昇、中学校では2.3ポイント減少したものの7割強の児童生徒が肯定的回答をしている。「自分の考えを発表する機会」において資料や文章、話の組み立てなどを工夫しようとする姿が伺える。「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」という設問に対する肯定的な回答は、小学校では昨年度より2.9ポイント上昇し、全国より2.6ポイント上回っている。中学校では昨年度より0.6ポイント上昇し、全国より2.4ポイント上回っている。「学習した内容について、わかった点や、よくわからなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」という設問に対する肯定的な回答は、小学校では減少傾向にあるものの、全国を0.7ポイント上回っており、中学校では昨年度より4.6ポイント上昇し、全国を0.2ポイント上回っている。

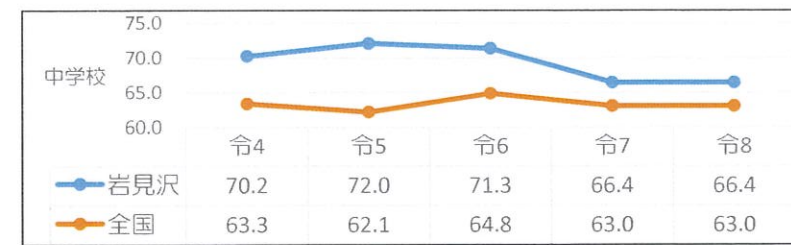
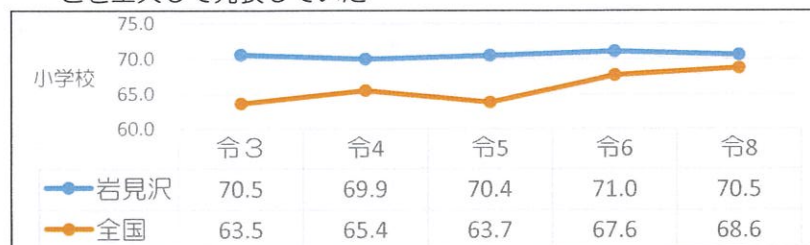
(39) 5年生まで（1、2年生のとき）に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた



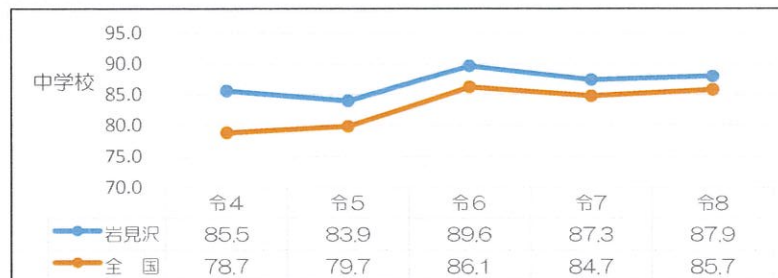
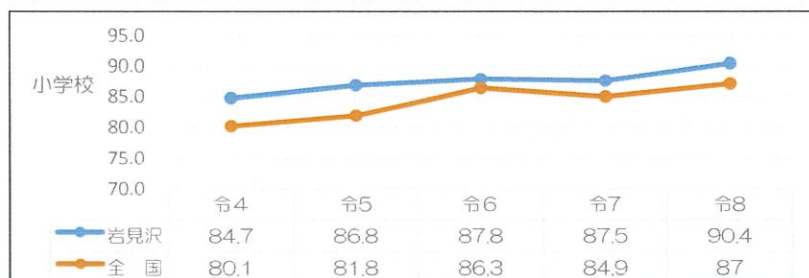
(16) 自分と違う意見について考えるのは楽しい



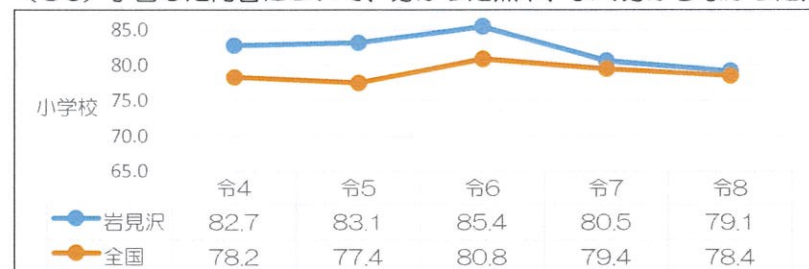
(38) 5年生（1、2年生）までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していた



(42) 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている

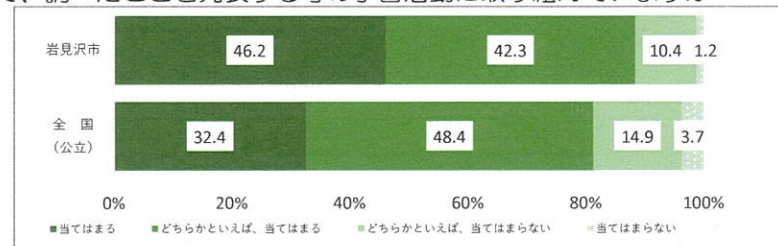
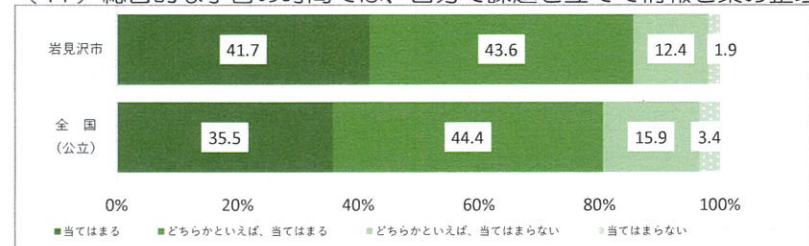


(36) 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができる

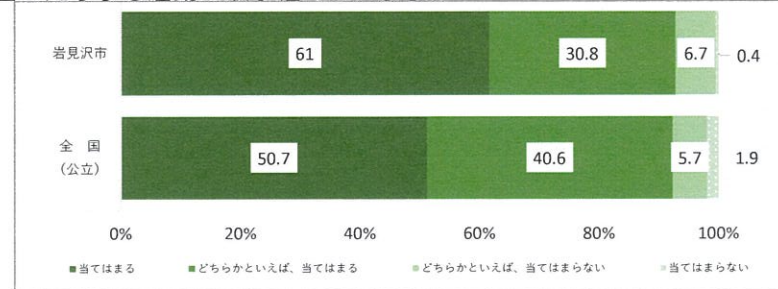
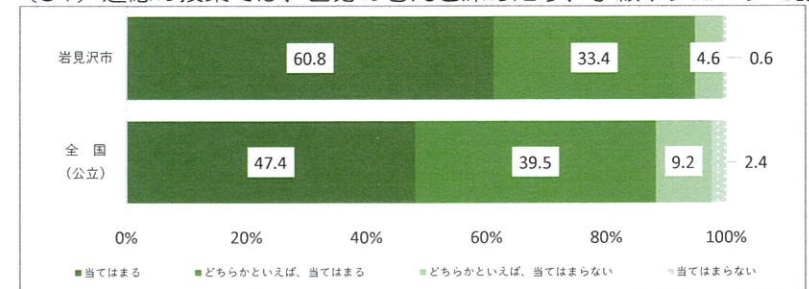


「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表する等の学習活動に取り組んでいますか」という設問に対する肯定的な回答は全国と比べて、小学校は5.4ポイント、中学校では7.7ポイント上回っている。また、「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか」という設問に対する肯定的な回答は小・中学校共に90%以上を占め、全国と比べても小学校は7.3ポイント、中学校では0.5ポイント上回っている。

(47) 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表する等の学習活動に取り組んでいますか



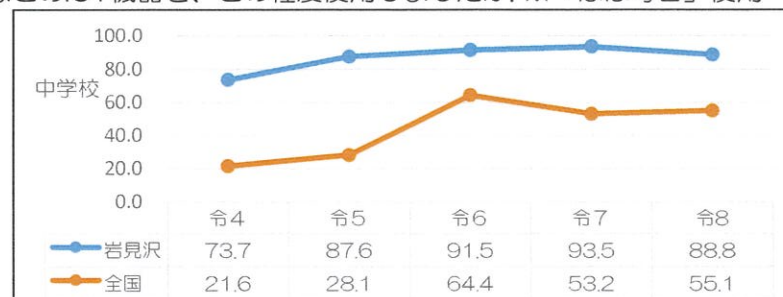
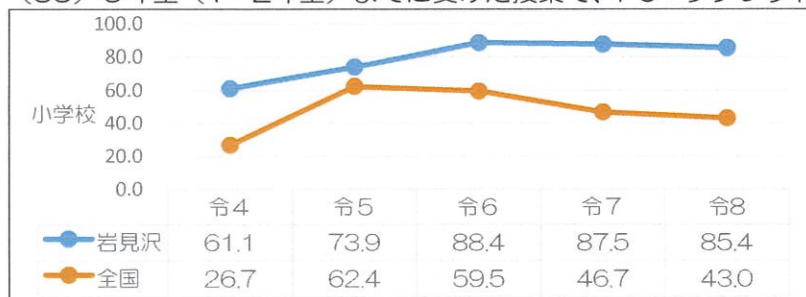
(51) 道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか



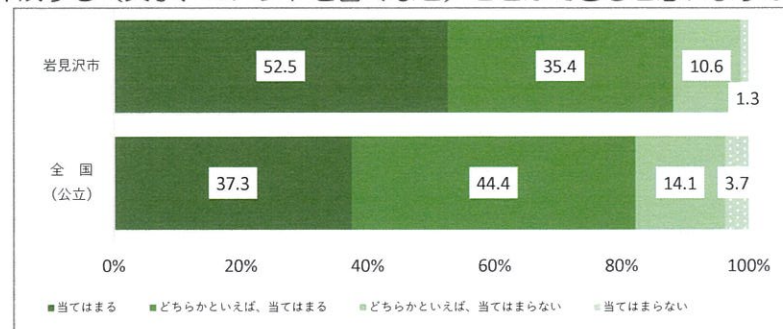
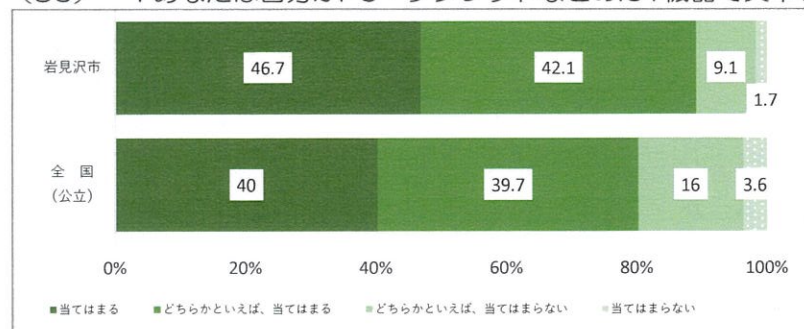
8 ICTの活用に関する状況

「5年生（1・2年生）までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」という設問では、全国と比べて、授業での活用が相当高い。経年変化で見てもICT機器の使用頻度は全国よりも相当高い状況を継続している。また、ICT機器の活用による情報収集や整理、総合的な学習への取組等、学習の効果を実感できていると思われる。

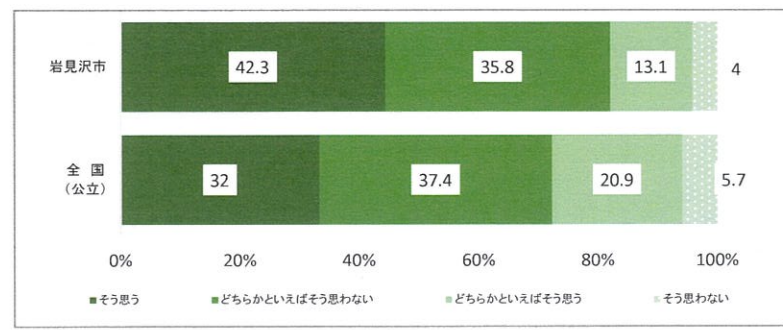
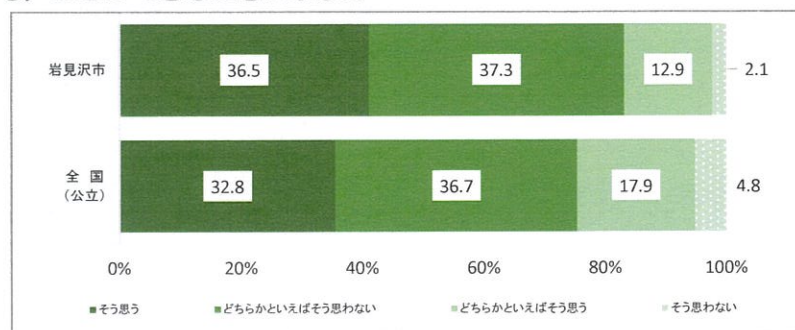
（35）5年生（1・2年生）までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか。※「ほぼ毎日」使用



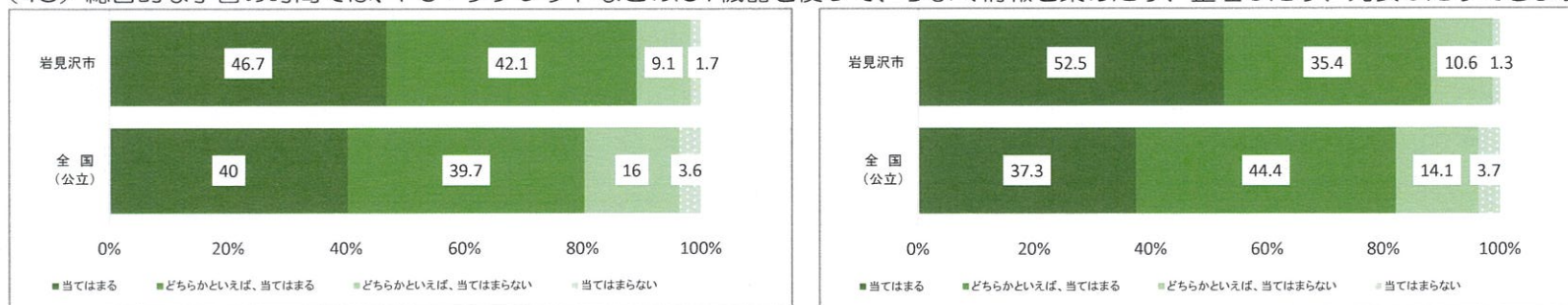
（36）－1 あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器で文章を作成する（文字、コメントを書くなど）ことができると思いますか



（36）－3 あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができると思いますか



(48) 総合的な学習の時間では、PC・タブレットなどのICT機器を使って、うまく情報を集めたり、整理したり、発表したりできますか



9 児童生徒質問調査のまとめ

- 【回答状況】
- ①いじめを許さない意識など、規範意識・他者尊重の基盤が強い。
 - ②主体的な課題解決、学んだことの活用、振り返り、総合的な学習の時間・学級活動等、主体的・協働的な学びの経験が豊かである。
 - ③ICTの授業活用経験と情報活用の基盤が全国を大きく上回る。
 - ④教師から認められている実感や、教科によっては学習の有用感・自己効力感が高い。

- 【課題】
- ①朝食・家庭学習・ICT利用等を含む生活時間を自己調整する力を育成すること。
 - ②教師からの肯定的な評価を、自分自身の強みの認識や他者への貢献につなげること。
 - ③国語・算数・数学、英語等、教科ごとに異なる自己効力感の底上げを図ること。
 - ④異なる意見を安心して表現し、対話によって考えを深める学級・学校風土を醸成すること。
 - ⑤ICTを情報収集・整理の道具から、思考・表現・協働を深める道具へ高度化すること。

【まとめ】

市全体として、「主体的・協働的な学びに向かう力」と「ICTを活用する力」の土台は育っているという強みが見られる。

一方で、「生活・学習の自己調整」「自分のよさを自覚する自己認識」「安心して異なる考えを出し合う対話」に課題がみられる。

今後は、既にある主体性・ICT活用・規範意識の強みを生かしながら、子どもが学ぶ意味を実感し、自分で学び方を選び、他者との対話を通して学びを深め、振り返り、次の学びを決めるという「学びを自分事」とする授業改善を、市全体で一貫して進めることが重要である。

VI 調査結果を踏まえ、各学校が取り組むべき岩見沢市の4つのProject

調査結果から見えた課題の克服に向け、各学校では児童生徒、家庭・地域などの実態に応じ、『キミがHERO』を合言葉として、子どもを主人公とした学びを自分事とするため、以下の4つのプロジェクトを推進する

Project 1 校内研修の充実

- ・授業の質的転換 ⇒⇒⇒ 岩見沢型授業 = 「学びを自分事とする授業」
- ・「学ぶ楽しさ」「伸びる喜び」を実感する授業

○「岩見沢型授業」として以下の5つのポイントから授業改善の具体化を図る

ポイント① 学ぶことへの納得 : 教師が「何を教えるか」、子どもが「なぜ学ぶのか」を自分の言葉で表現できる授業への転換

→教材研究 : 単元構想図の作成・共有

ポイント② 学びの動機づけのアップデート : 教師の「教えたい」を子どもの「学びたい」に変える仕掛けがある授業への転換

→導入 : 子どもの心に灯を点ける動機付け

ポイント③ Let's型から Can型へ : 身に付けるべき資質・能力を明確にした授業への転換

→課題提示 : 学習の明確化

ポイント④ 自己決定 : 子どもが自分に合った課題や学び方を決められる授業への転換

→展開 : 指導の個別化と学習の個性化

ポイント⑤ 振り返り : 子どもが自身の学び方をメタ認知・可視化できる授業への転換

→終末 : 変容の実感を伴うメタ認知

Project 2 岩見沢型ピア・サポート

- ・ねらい : 子どもが安心して学ぶことができる学習集団を形成すること ⇒⇒⇒ 心理的安全性が確保された学習集団作り
- ・定義 : MLAの理論とスキルを学習活動の場面に生かすこと

・「安全・安心」として、関わりの機会を増やす、関わる量と質の充実、「成長支援」として関わり方を学ばせる、関わるスキルの獲得を目指す

・学習活動の中で誤答や途中経過の試行錯誤を歓迎できる学級風土を醸成し、自分の意見を安心して表現できる対話的な学びの基盤に繋げる

・ペアやグループでの対話において根拠を説明し合い、納得解をつくる協働的な学びを日常的に導入する

Project 3 授業時数特例校制度

- ・教育課程の裁量権(カリキュラム・マネジメントによる特色ある教育課程)
- ・子どもの資質・能力を伸ばす時間の充実

- ・各校の調査結果、本市の傾向から顕著となった課題に対し、各校の特色を生かしながら教育課程を編成していく
- ・既存の教育課程を見直し、単元間の横断等、発展的・個別的な指導時間を創出し、個別最適な学びの時間を設定する
- ・授業時数特例制度を活用し、探究的な学びで得意を伸ばす時間、基礎・基本の定着を徹底的にフォローする時間等を効果的に取り入れていく

Project 4 コミュニティ・エリア構想

- ・エリア内における小中の連携強化
- ・学校だけではなく、社会総がかりで子どもを育てる
- ・地域との結びつきの強化

○小中連携による取組の共有と継続

- ・中学校区で目指す子ども像を共有し、9カ年を見通した組織的な取組(指導過程、授業過程の統一等)による学びを確立する
- ・小中合同研究による指導方法等を統一する
- ・児童生徒理解の深化を図る
- ・地域資源、外部人材の活用等、関係機関の協力を得た授業を実施する

○地域・家庭との連携

- ・「家庭の5つの約束」の理解啓発を図る
- ・「生活・学習習慣」の定着に向け、ゲーム・スマートフォンの使用のルール等の取り決め(例 ノーメディア・デイ)や家庭学習の共通ルール等、子ども自身が基本的な生活・学習習慣を自己調整できるよう支えるため、学校・家庭・地域が協働、連携していく